

年報

平成27年度



千葉県立
現代産業科学館
CHIBA MUSEUM OF SCIENCE AND INDUSTRY

目次

I 館概要

1 設置目的	1
2 沿革	1
3 千葉県立現代産業科学館の使命	2
4 運営の基本方針	2
5 施設概要	
(1) 1階平面図	4
(2) 2階平面図	4
(3) 地下1階平面図	4
(4) 各室面積表	5
(5) 建築等の概要	6
(6) 総工費	6
(7) 工事関係者	6
6 管理運営	
(1) 組織及び分掌	6
(2) 職員及び職員構成	7
(3) 職員の配置状況	7

II 平成27年度事業報告

1 利用状況	8
2 展示事業	
(1) 常設展示	9
(2) 企画展	
プラネタリウム上映会	
「悠久なる星の海へ	
—12K MEGASTAR-FUSION—」	10
(3) 企画展	
「最先端ネットワークの	
かたち」	11
(4) 新収蔵資料展	
—佐々木カメラコレクション—	14
(5) 特設コーナー	14
(6) ワークショップ	15
(7) サイエンスドームギャラリー	16
(8) イベント展示	17

3 調査研究事業	
(1) 調査研究活動	18
(2) 収集保存活動	19
4 展示・普及事業等	
(1) 事業実施状況	19
(2) 広報活動	26
5 情報提供活動	
(1) 図書資料等の収集・提供	26
(2) レファレンス活動	26
(3) ホームページ等	27
6 連携・協力事業	
(1) 展示・運営協力会	27
(2) 「授業に役立つ県立博物館」	
プロジェクト	30
(3) ボランティア	30
(4) 地域連携等事業	
ア公益財団法人	
千葉県教育振興財団	31
イ教育機関・学校等	34
ウNPO法人	38
エ地域企業等	39
オ諸機関	40
カ学校教育支援	40

III 資料

1 入館状況	44
--------	----

I 館概要

1 設置目的(専門性・テーマ等)

科学の目覚ましい進歩に伴って産業は著しく発展し、私たちの生活は大きく向上してきた。

これらの産業を支える科学技術はますます重要となり、人間社会に対する直接的な影響を強める一方、その理解は複雑で難しいものとなっている。

そこで、千葉県立現代産業科学館は、子どもから大人までだれもが産業に応用された科学技術を体験的に学ぶことができる場を提供することを目的として設置された。

2 沿革

年 月 日	事 項
1981年(昭和56)	千葉県第2次新総合5カ年計画に「千葉県立現代産業科学館(仮称)の設置」が盛り込まれる。
1988年(昭和63)	市川市から県へ建築用地が寄付される。
1989年(平成元)	設置準備委員会での検討を経て基本構想を策定する。 展示の設計協議を行い、展示基本計画を策定する。
1990年(平成2)	展示基本設計を作成する。 建築基本・実施設計を作成する。
1991年(平成3)	展示実施設計を作成する。 杭打工事、建築本体工事に着工する。
1992年(平成4)	展示工事に着工する。
1993年(平成5)	6月30日 外構工事に着工する。 建築工事が竣工する。
1994年(平成6)	1月31日 展示工事が竣工する。 4月1日 機関設置される。 6月15日 開館する。初代館長青木國夫就任
1996年(平成8)	3月2日 入館者50万人
1997年(平成9)	4月1日 2代目館長岡田厚正就任 8月28日 入館者100万人
1999年(平成11)	3月25日 入館者150万人
2000年(平成12)	4月1日 3代目館長檜垣義明就任 8月15日 入館者200万人
2002年(平成14)	2月11日 入館者250万人 4月1日 4代目館長須田繁就任
2003年(平成15)	4月1日 5代目館長鈴木道之助就任 7月13日 入館者300万人
2004年(平成16)	4月1日 6代目館長山田秀一就任
2005年(平成17)	10月28日 入館者350万人
2006年(平成18)	4月1日 7代目館長佐久間文孝就任
2008年(平成20)	8月26日 入館者400万人

2009年(平成21)	4月1日	8代目館長府川雅司就任
2010年(平成22)	4月1日	9代目館長石井暁就任
2013年(平成25)	4月1日	10代目館長鈴木清史就任
2014年(平成26)	4月1日 8月26日	11代目館長小野祐司就任 入館者500万人

3 千葉県立現代産業科学館の使命

千葉県立現代産業科学館は、科学技術の調和ある発展と、人類社会の未来の可能性を信じて様々な活動を展開し、幅広い県民の集う博物館を目指します。

- (1) 鉄鋼、石油、電力など本県工業の基幹をなす産業と、先端技術産業等に応用された科学技術について、博物館の視点で調査・研究するとともに、適正な評価基準により資料を収集・保存・展示し、次の世代に託します。
- (2) 工場プラントなど大型の設備や建造物について、画像などによる記録保存に努めるとともに、工業歴史資料調査を継続して実施し、本県の産業に関わる歴史的資料の保存に留意しながら、その情報を県民と共有し必要に応じて県内外に発信します。
- (3) 私たちは工業製品に囲まれていながら、その基本となる科学技術について十分理解しているとはいえません。子どもから大人まで体験できる展示・演示実験・各種教育普及事業等を通じて、科学技術や文化に親しむ場を目指します。
- (4) 県立博物館として高い専門性と幅広い活動を維持し、地域の各種団体との親和に留意するとともに、産業界、学校教育、NPO法人等組織との連携を密にして県民のニーズに応えます。

4 運営の基本方針

- (1) 展示活動
 - ア 展示活動

展示解説やミニイベント等、人と人の対話を重視した積極的な展示室の運営と、時代の変化に即した展示更新や組み替えを行う。
 - イ イベント活動

展示をよりわかりやすく興味深いものとするため、テーマを決めて解説するイベントを実施する。常設展示では扱うことの困難な最新の産業技術や科学技術についても、県民に親しみやすく魅力のあるイベントとして実施する。
- (2) 調査研究活動
 - ア 調査研究活動

展示活動や教育普及活動に生かすため、産業に応用された科学技術や科学技術と人間とのかかわりに関する調査研究を行う。
 - イ 収集・保存活動

博物館活動の推進及び県民の多様な要望に的確に対応できるよう、博物館資料を整理・保存し、維持管理する。
- (3) 教育普及活動
 - ア 教育普及活動

主として館の施設を用い、参加対象者に応じた科学技術や産業技術に関する教育活動を企画・運営する。

イ 館外普及活動

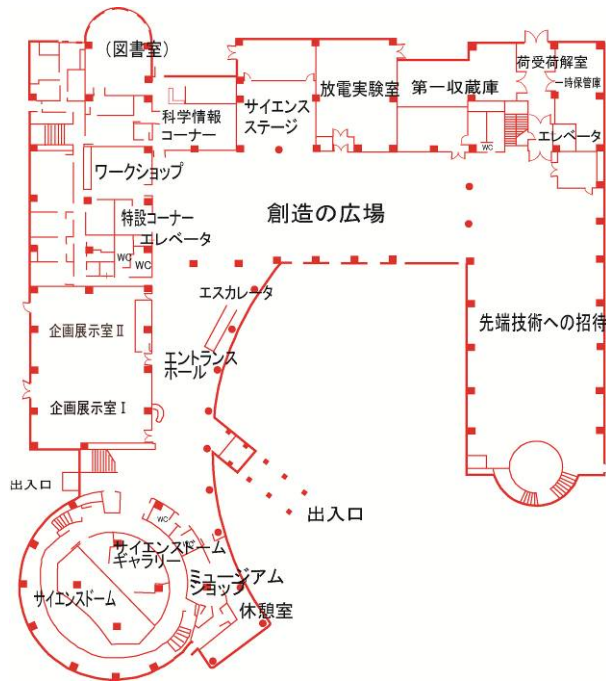
館の活動基盤を広げるため、関係機関との情報交換や人的交流を行うとともに、県民の科学教育活動への支援及び広報活動を行う。

(4) 情報提供活動

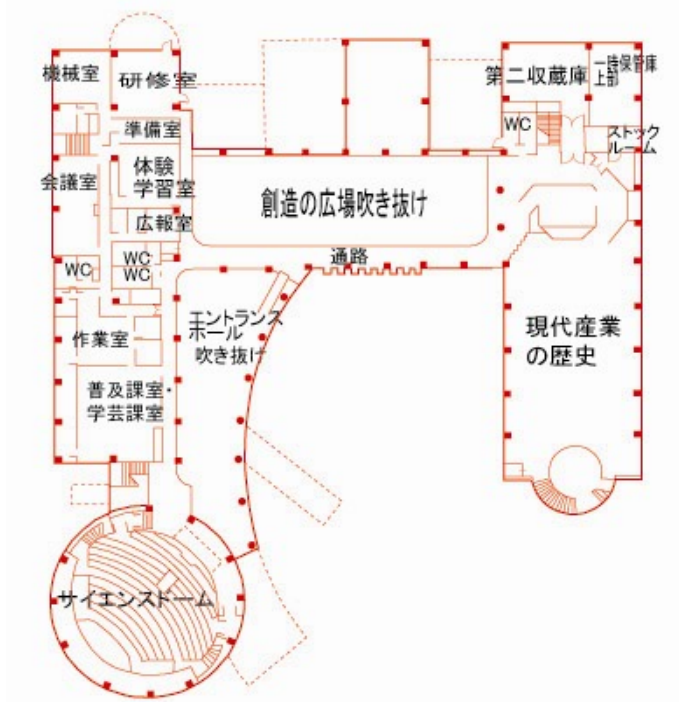
科学技術や産業技術に関する情報の発信源として、初歩的な要求から専門的な要求にまで対応できるよう、情報の収集・整理・提供を行う。

5 施設概要

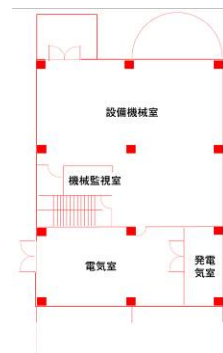
(1) 1階平面図



(2) 2階平面図



(3) 地下1階平面図



(4) 各室面積表

	展示			管理事務			
	名 称	面積(m ²)		名 称	面積(m ²)		
展示	現代産業の歴史	1223.06	管理事務	館長室	22.22		
	創造の広場	1374.72		副館長室	23.79		
	先端技術への招待	930.64		応接室	25.04		
	企画展示室Ⅰ	191.32		庶務課室	57.59		
	企画展示室Ⅱ	239.90		会議室	93.08		
	特設コーナー	29.40		印刷室	13.99		
	小 計	3989.04		機械監視室	15.00		
				職員用トイレ	40.52		
教育普及	研修室	90.97	書庫(資料室)	11.79	小 計	303.02	
	ワークショップ	91.66					
	体験学習室	123.67	研究	普及課室・学芸課室	173.70		
	広報室	26.48		作業室	77.73		
	科学情報コーナー	321.34		資料室	13.30		
	内 訳	図書室		106.06	原材料室	12.25	
		書庫		36.12	暗室	10.92	
		情報提供室		106.44	小 計	287.90	
		撮影スタジオ		23.60	サイエンスドーム	サイエンスドーム	452.98
		AV機械室		9.73		ドームギャラリー	64.40
		アナウンスブース		4.72		予備室	18.79
		情報制作室		34.67		事務室	17.29
		小 計		654.12		コントロールブース	22.72
	収 蔵	収蔵庫(1)	141.29	小 計	576.18		
収蔵庫(2)		121.22	設備・その他	機械室	526.22		
荷受・荷解室		50.85		救護室	11.48		
一時保管庫		97.60		更衣室(1)	9.49		
EV前室		14.70		更衣室(2)	9.34		
小 計		425.66		警備員室	14.40		
サービ ー	エントランスホール	459.30		管理員室	14.42		
	休憩室	89.96	宿泊室	13.57			
	ミュージアムショップ	37.45	浴室	9.66			
	倉庫	5.86	給湯室(1)(2)	8.47			
	トイレ	3.45	トイレ	140.56			
	予備室	17.40	その他共用部分	878.38			
	ロッカールーム	7.28	小 計	1635.99			
	小 計	620.70					

(5) 建築等の概要

建物名称	千葉県立現代産業科学館
所在地	千葉県市川市鬼高1丁目1番3号
地域地区	商業区域・防火地域
用途	博物館
敷地面積	18,181.85 m ²
建築面積	5,150.14 m ²

(6) 総工費

7,876,674 千円

(7) 工事関係者

ア 設計

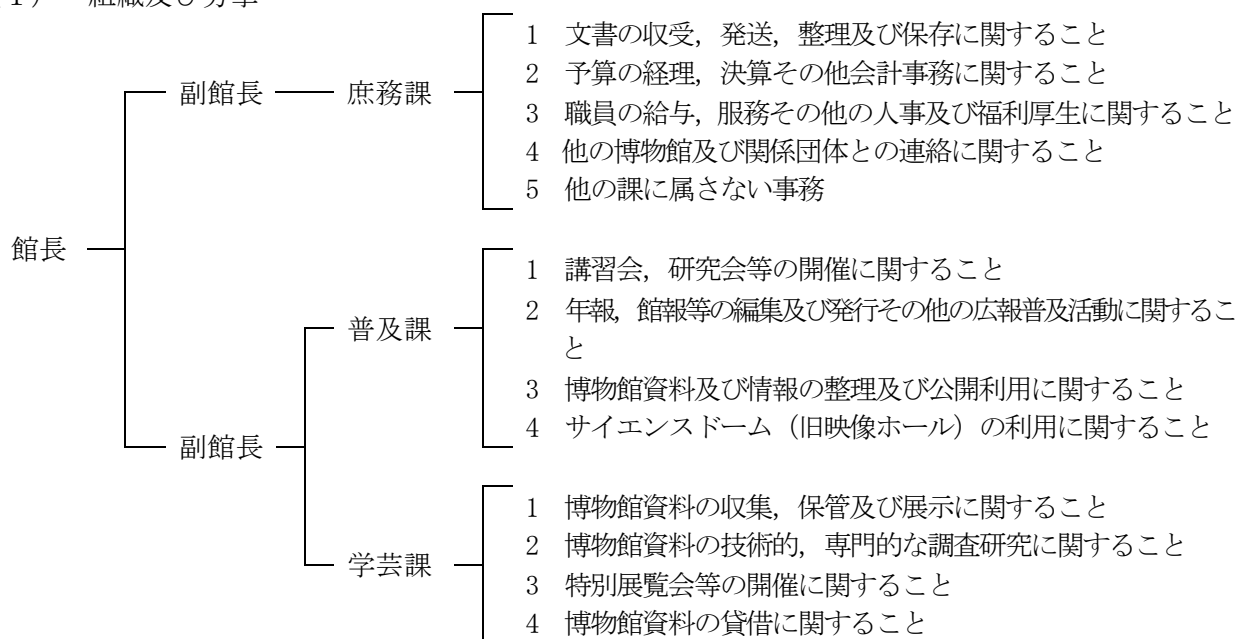
- ・ 建築・設備 (株)石本建築事務所
- ・ 外構・植栽 (株)石本建築事務所
- ・ 展示 (株)トータルメディア開発研究所

イ 施工

- ・ 建築 竹中・大城特定建設工事共同企業体
- ・ 電気設備 川鉄電設・興電社特定建設工事共同企業体
- ・ 空気調和設備工事 一工・セントラル特定建設工事共同企業体
- ・ 給排水衛生設備工事 第一工業(株)
- ・ ガス設備工事 京葉瓦斯(株)
- ・ 外構土木工事 (株)竹中工務店
- ・ 外構植栽工事 岡本植木(株)
- ・ 展示工事 (株)トータルメディア開発研究所

6 管理運営

(1) 組織及び分掌



(2) 職員及び職員構成

館長 小野 祐司
副館長 金田 雅成
副館長 櫻井 一浩

【庶務課】

庶務課長事務取扱 櫻井 一浩
主査 高野 和史
副主査 高梨真裕美
主事 鶴澤 一成
嘱託 中村 苗子
日々雇用 藤崎 郁子

【普及課】

普及課長 谷鹿 栄一
主任上席研究員 青柳 裕之
主任上席研究員 新井 直樹
主任上席研究員 渋谷さゆり
主任上席研究員 須賀 伸吾
主任上席研究員 加藤 修司
研究員 河西 敦史
研究員 石渡 克彦

【主任技術員】

伊藤 利通 内山 茂樹
飯田 雅夫 川井 龍一
村松 二郎 小坂 俊晴

【学芸課】

学芸課長 鈴木 淳一
主任上席研究員 東畑 宏之
主任上席研究員 佐俣 憲範
主任上席研究員 竹内 洋子
主任上席研究員 佐々木善裕
主任上席研究員 森 恭一
主任上席研究員 村井 克行
主任上席研究員 生井 敏昭
主任上席研究員 上野 純司
上席研究員 石井 俊正
上席研究員 伊藤 亮
上席研究員 川端 保夫
嘱託 小田川由依

【展示解説員】

篠崎満理佳
柳生 綾乃
佐藤 佳奈

(3) 職員の配置

区分	行政職	研究職	小計	嘱託	日々雇用	展示解説員	主任技術員	合計
人数 (人)	6	20	26	2	1	3	6	38

Ⅱ 平成 27 年度事業報告

1 利用状況

	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
開館日数	309	26	27	26	28	26	26	27	25	24	24	24	26		
入場者	総計	152,887	8,432	9,823	9,788	12,900	27,324	27,317	13,344	8,801	6,953	8,131	9,903	10,171	
	有料入場者	24,870	1,534	1,643	1,268	2,114	9,043	1,859	1,237	1,365	928	1,231	1,272	1,376	
	無料入場者	128,017	6,898	8,180	8,520	10,786	18,281	25,458	12,107	7,436	6,025	6,900	8,631	8,795	
	計	142,731	8,104	9,007	8,940	11,318	26,723	25,658	12,001	7,776	6,402	7,668	9,382	9,752	
個人	計	23,961	1,411	1,627	1,240	1,918	8,960	1,767	1,157	1,308	888	1,170	1,177	1,338	
	有料	一般・成人	22,784	1,375	1,581	1,148	1,878	8,546	1,545	1,129	1,259	791	1,111	1,138	1,283
		高・大学生	1,177	36	46	92	40	414	222	28	49	97	59	39	55
	計	118,770	6,693	7,380	7,700	9,400	17,763	23,891	10,844	6,468	5,514	6,498	8,205	8,414	
	無料	一般・成人	87,795	4,616	5,317	5,042	6,449	9,947	20,987	9,126	4,584	4,224	4,883	6,648	5,972
		高・大学生	23	-	1	20	-	-	-	-	-	-	2	-	-
		中学生以下	30,952	2,077	2,062	2,638	2,951	7,816	2,904	1,718	1,884	1,290	1,613	1,557	2,442
計	10,156	328	816	848	1,582	601	1,659	1,343	1,025	551	463	521	419		
団体	計	909	123	16	28	196	83	92	80	57	40	61	95	38	
	有料	一般・成人	876	123	16	28	195	78	92	60	52	40	59	95	38
		高・大学生	33	-	-	-	1	5	-	20	5	-	2	-	-
	計	9,247	205	800	820	1,386	518	1,567	1,263	968	511	402	426	381	
	無料	一般・成人	1,424	67	140	64	150	130	18	231	120	69	221	151	63
		高・大学生	420	-	326	28	-	-	-	37	20	2	-	7	-
		中学生以下	7,403	138	334	728	1,236	388	1,549	995	828	440	181	268	318
数	220	8	14	15	31	13	23	22	20	13	17	20	24		
外国人数(内数)	122	16	4	2	20	21	5	11	11	19	8	3	2		
入場料収入額	9,165,820	470,120	506,940	388,720	644,420	4,022,440	539,780	457,860	665,450	314,170	367,000	380,150	408,770		

2 展示事業

(1) 常設展示

ア 展示

(ア) エントランスホール

2階吹き抜けのホールでありチケットカウンターを境として、無料と有料のゾーンに分かれる。無料ゾーンでは大型モニターにより企画展関連情報や館内の実験教室などの紹介映像を繰り返し流している。有料ゾーンでは、当館のシンボルである発電機用タービンローターを展示している他、企画展や展示会等での展示場の一部として活用したり、他の博物館から借用した航空機エンジンなどの資料が展示されることもあった。また、エスカレーター下のスペースを休憩コーナーや実験工作教室の会場として使用している。

(イ) 現代産業の歴史

千葉県の基幹産業である鉄鋼・石油・電力産業の発展の歴史や現代の技術に関する展示を通して、科学技術と人との関わりについて紹介している。『1913 年型T型フォード』や世界初の電車である『ジームスの電車』、千葉県における鉄鋼業発展の記念碑的存在である『川崎製鉄一号高炉模型』等の展示物がある。

(ロ) 先端技術への招待

新しい技術やそれらが私たちの生活をどのように変化させていくのかを紹介するために、レーザ加工機等の極限環境、液晶やセンサ（光電子増倍管）等のエレクトロニクス、セラミックスや機能性高分子等の新素材、DNA 二重らせん構造模型等のバイオテクノロジー、燃料電池等の地球環境を中心に展示している。なお、27年度はスーパーカミオカンデ・イベントディスプレイと iPS 細胞、及び、バイオメテイクスコーナーを追加した。

(ハ) 創造の広場

参加・体験型の展示によって、身近な科学現象の不思議さや美しさを体験できる。「ウォーターロケット」や「ガリバーのシャボン玉」等の操作ができる展示物が多数設置されている。また、雷放電を実演する「放電実験室」や世界を変えた発明・発見について人形劇や科学実験で紹介している「サイエンスステージ」も設置されている。

(ニ) 科学情報コーナー

平成 24 年度より、遊びながらコンピューターが学べる体験を中心とした展示を行ってきた。平成 25 年度特別展以降、日本宇宙フォーラムより毎月届く最新宇宙情報 spacei を中心に、宇宙情報コーナーを併設した。

a 宇宙情報コーナー

国際宇宙ステーションや小惑星探査機はやぶさなどの情報を、パネルや模型、映像で紹介している。

b アルゴブロック

楽しみながらコンピューターのプログラムが学べる展示をしている。

c ロボットアーム操縦体験（4月26日～12月7日）

ロボットアームの操作を楽しめる体験ゾーンを設置した。

d 折りづる「はやぶさ2」折り紙（12月13日～3月31日）

小惑星探査機はやぶさ2を応援する折りづるコーナーを設置した。

イ 演示実験

(ア) 実験シアター

現代の高度で専門的な先端技術を支えている極限環境の世界に触れることを目的として、液体窒素を使用した実験を行った。座席数は21で最大40名程度である。実験は平日3回、土日祝4回、1回につき15分で実施した。実験の内容は、超低温（約-196℃）での物質の凍結、気体の液化・固化、超電導現象実験である。また、実験カウンターのプログラムであるレーザ加工機を使ったレー

ザマーキングを実演した。

平成 27 年度の実施回数は 818 回、参加者数は 12,607 人であった。

(イ) 実験カウンター

身近な物理現象と様々な素材がもつ性質について、入場者の目前で実施する実験により紹介することを目的としている。座席数は 6 で、概ね 20 名程度までである。実験は平日 3 回、土日祝 4 回、1 回につき 15 分で実施した。実験は圧気発火実験、スターリングエンジン、ブラックライト等 22 種類のプログラムを順番に実施した。なお、ゲルの実験の一つをバイオミメティクスの内容に入れかえた。

平成 27 年度の実施回数は 770 回、参加者数は 7,434 人であった。

(ウ) 放電実験

雷の性質と電力産業の送電系における避雷について、実験を交えて紹介している。実験の内容は、高電圧発生装置により、円弧の形をした炎のような放電現象が起こる「アーク放電実験」、ガラス表面に網の目状の放電が起こる「沿面放電実験」、送電鉄塔の模型や送電鉄塔の「がいし」の実物に落雷させる「雷放電実験」がある。また、設備の老朽化が進む中、3 月には沿面放電実験用昇降モーターを交換した。

平成 27 年度の実施回数は 927 回で、参加者数は 28,033 人であった。

(エ) サイエンスステージ

産業の基礎となった科学技術を楽しくわかりやすく紹介する劇場仕立てのステージである。演目には実験を交えた『人形劇』と『楽しい科学実験』がある。『キュリー夫人と放射線』の人形劇や『風に浮かぶボール』等の科学実験を実施している。また、不定期であるが外部の講師による『サイエンスショー』を行ったり、クリスマス時期にはイギリスの科学者ファラデーが 1860 年から 1861 年にかけてのクリスマス休暇に王立研究所で行ったクリスマスレクチャーにちなみ、当館学芸課職員による『クリスマス実験講座』を昨年度に続いて行った。

平成 27 年度の実施回数と参加者数は『人形劇』が 262 回で 10,429 人、『楽しい科学実験』が 447 回で 9,438 人であった。

(2) 企画展

「悠久なる星の海へー12K MEGASTAR-FUSIONー」

ア 開催期間：平成 27 年 8 月 4 日（火）～8 月 25 日（火）（開催日数 19 日間）

イ 場 所：サイエンスドーム

ウ 入館者数：15,766 人

エ 趣 旨：プラネタリウム上映会として、最新鋭のシステムを導入し、大規模で高精細な星空を再現し、その素晴らしさを実感してもらうために、サイエンスドームにおいて、プラネタリウム上映会及び上映解説会を開催する。光学式プラネタリウム投影機と 4K プロジェクター 17 台を駆使した新たな技術 MEGASTAR-FUSION システムによって高精細な星空とデジタル映像を融合した映像を映し出し、その臨場感を体感してもらい、県民・観客を魅了した。

オ 構成

企画展として、大平貴之氏が開発した光学式プラネタリウム投影機と 4K プロジェクター 17 台を駆使した技術 MEGASTAR-FUSION システムによるプラネタリウム上映会を開催した。大平氏による上映解説会を 2 日間（1 日 2 回）実施した。

a 上映時間 ①10：00～②11：10～③12：30～④13：40～⑤14：50～⑥16：00～

b 上演番組 星のある風景～旅～（8 月 4 日（火）～13 日（木）①②③回，8 月 14 日（金）～25 日（火）④⑤⑥回）

スタークルーズ～わたしたちは誰？～（8 月 4 日（火）～13 日（木）④⑤⑥回，8 月 14 日（金）～25 日（火）①②③回）

c 上映解説会 プラネタリウムクリエイター 大平貴之氏

- 8月9日(日), 16日(日) ②④回を実施
 上映解説会参加者数1,034人
 e プレミアム先行上映会 8月4日(火) ポストカードプレゼント
 大平貴之氏ミニ解説 ①④回を実施
 f アンコール上映会 8月25日(火) ポストカードプレゼント

(3) 企画展「最先端ネットワークのかたち」

- ア 開催期間 平成27年10月17日(土)から12月6日(日) 開館44日間
 イ 場所 企画展示室, およびエントランスホール
 ウ 入場者数 7,264名
 エ 趣 旨

情報通信とエネルギーのネットワークについての企画展を開催した。情報通信分野では、国際通信の99%を担っている光海底ケーブルシステムについて、仕組みや敷設・保守技術などとともに、世界への玄関が成田空港や千葉港だけではないことを紹介した。さらに、インターフェースを中心に最先端技術も紹介した。エネルギー分野では、送配電とガス供給について、情報通信技術(ICT)を活用して限りある資源を有効に利用すべく技術開発が進められている、供給ネットワークやスマートグリッドを紹介した。

オ 展示内容・構成

- | | |
|------------------------|-------------------|
| (ア) インターフェース | (ク) 衛星通信 |
| (イ) 安全にインターネットを使用するために | (ケ) 災害に備えるネットワーク |
| (ウ) ネットワーク可視化技術 | (コ) 情報通信ネットワークの未来 |
| (エ) 通信用ケーブル | (カ) 新しいインターフェース |
| (オ) 光海底ケーブルシステム | (キ) 電力のネットワーク |
| (カ) 千葉県にある世界への玄関 | (ク) 都市ガスのネットワーク |
| (キ) 千葉県の漁業を支えるネットワーク | |

カ 関連事業

(ア) 先行行事

a JARL 90th 特別記念局 in 現産館

企画展の先行行事として、日本アマチュア無線連盟(JARL)の創立90周年を記念した特別記念局の公開運用を夏休み最後の土曜日に実施した。一般社団法人日本アマチュア無線連盟千葉県支部の方々に来館し運営にあたってくれた。公開運用に参加できるのは、アマチュア無線技士無線従事者免許証を持ち、日本アマチュア無線連盟会員の方に限られたため、一般の来館者でも参加できる「モールス信号打電体験」を併せて実施した。

- (a) 実施日: 平成27年8月29日(土)
 (b) 場所: エントランスホール(有料ゾーン)
 (c) 参加者数: 188人

b 超高速インターネット衛星「きずな」衛星通信公開実験

(ア)の公開運用と同じ日に、宇宙航空研究開発機構(JAXA)とともに超高速インターネット衛星「きずな」を開発した情報通信研究機構(NICT)に依頼し、通信格差解消や遠隔地医療、災害時対応に有効な衛星通信の公開実験を実施した。

- (a) 実施日: 平成27年8月29日(土)
 (b) 場所: エントランスホール(無料ゾーン)
 (c) 参加者数: 965人

(イ) 関連行事

a DeNA 出前授業 ～ネット安全教室～

企画展開始後の最初の日曜日に「DeNA 全国出前授業～ネット安全教室～」を実施した。最初に、サイエンスステージにてネットリテラシー講座を実施した。内容はアニメのキャラクターがインターネットを安全に利用するためのクイズを出題し、参加者に答えてもらい、その後正解を発表し、注意を促す形式であった。次に、エスカレータ下に移動し、体験コーナーとして携帯端末を使用したアバター製作、タブレットを使用した啓発アプリ体験、プログラミング体験を実施した。

- (a)実施日：平成27年10月18日（日）
- (b)場 所：サイエンスステージ（講座），エントランスホール（体験コーナー）
- (c)講 師：株式会社ディー・エヌ・エー 山田勝之氏 浅川美保氏
- (d)対 象：小学生以上※小学3年生以下は保護者同伴
- (e)参加者数：60人（ネットリテラシー講座と体験コーナーの合計）

b NTT「可搬型ポータブル衛星装置」展示

東日本電信電話株式会社が実際に運用している災害対策用の衛星通信装置の展示をエントランスホールで実施した。本装置は万一災害が発生した際には展示を中止し、災害対応の為に出勤することも想定される貴重なものである。

- (a)実施日：平成27年10月24日（土）,25日（日）
- (b)場 所：エントランスホール（無料ゾーン）
- (c)参加者数：3,084人

c 鉱石ラジオをつくってみよう

10月最後の日曜日に「鉱石ラジオをつくってみよう」を実施した。実施に当たり、本館展示・運営協力会20周年記念の協賛金により購入した実験キットを使用した。参加者は小学低学年から中学生と比較的幅の広い年齢層となった。最初に鉱石ラジオについて簡単な説明をした後、キットの製作、完成した参加者から実際に視聴してもらった。

- (a)実施日：平成27年10月25日（日）
- (b)場 所：体験学習室
- (c)講 師：当館職員
- (d)対 象：小中学生※小学3年生以下は保護者同伴
- (e)体験者数：40人(2回合計)

d 楽しい電子工作

日本アマチュア無線連盟千葉県支部の協力により「楽しい電子工作」を実施した。参加者の募集は、電話による事前申し込みとし、当日までに各回定員の20名の申し込みがあった。工作教室の実施に当たり、キットの準備、参加費の徴収、講師等は同支部が行い、本館は、参加者の事前申込、工具の準備、当日のサポートを行った。

- (a)実施日：平成27年11月8日（日）
- (b)場 所：体験学習室
- (c)講 師：一般社団法人日本アマチュア無線連盟千葉県支部 菊池宏氏他2名
- (d)対 象：小中学生※小学3年生以下は保護者同伴
- (e)参加者数：37人（2回合計）

e e-ネット安心講座

総務省が中心となり、文部科学省及び通信事業者等と連携し、保護者や学校の教職員、児童生徒を対象とするインターネットの安心・安全な利用に向けた啓発活動を実施しているeネットキャラバンによる「e-ネット安心講座」を実施した。講演内容は、ネット依存や肖像権につ

いて等、インターネットに潜む危険について、児童にもわかりやすく丁寧に解説してくれた。また、保護者に対しても携帯電話のフィルタリングについて等、関連する法令についても説明してくれた。

- (a)実施日：平成27年11月15日（日）
- (b)場 所：サイエンスステージ
- (c)講 師：細野氏
- (d)対 象：小中学生及び保護者 ※小学生3年生以下は保護者同伴
- (e)参加者数：43人

f そうだったのか 最新海底ケーブル技術！

国際ケーブル・シップ株式会社による講演会「そうだったのか 最新海底ケーブル技術！」を実施した。光海底ケーブルのカットモデル、通称「タケノコ」や、深海の高圧により縮小したカップ麺の容器等、参加者の興味を惹きそうな物の紹介があった。講演内容は、最新光海底ケーブル「FASTER」についての情報や、海底ケーブルの歴史、サメがケーブルに噛みつく映像、ケーブル修理の手順、水中ロボット「マーカス」について等、どれも普段聞くことのできない専門的な話であった。

- (a)実施日：平成27年11月23日（月・祝）
- (b)場 所：サイエンスステージ
- (c)講 師：国際ケーブル・シップ株式会社 木本氏将氏
- (d)対 象：小学生以上 ※小学3年生以下は保護者同伴
- (e)参加者数：72人

g 千葉県少年少女発明クラブ絵画展「あったらいいな、こんなスマートフォン」

21世紀を担う子どもたちが、将来実現したらいいなと思う機能を備えたスマートフォンを自由な発想で考え絵画に表現することで、子どもたちの科学的創造力の伸長を図ることを目的に実施した。県内の各少年少女発明クラブに募集をしたところ、5つのクラブから昨年度を上回る67点の参加申し込みがあった。

- (a)実施日：平成27年10月17日（土）～12月6日（日）
- (b)場 所：エントランスホール

キ 展示協力者

KDDI 株式会社 国際ケーブル・シップ株式会社 国立研究開発法人情報通信研究機構 株式会社モトヤ 株式会社 QD レーザ 株式会社パリティ・イノベーションズ NTT 技術史料館 株式会社フジクラ 近畿日本ツーリスト株式会社 国立大学法人大阪大学 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 株式会社 NTT ドコモ KICKSWeb 株式会社ディー・エヌ・エー e-ネットキャラバン 一般社団法人日本アマチュア無線連盟千葉県支部 船橋市アマチュア無線クラブ 学校法人国際理工情報デザイン専門学校 日本電気株式会社 株式会社 OCC 自然科学研究機構国立天文台 東日本電信電話株式会社 千葉県農林水産部 千葉県水産情報通信センター 千葉県環境生活部・東京電力株式会社・東京ガス株式会社・京葉ガス株式会社・株式会社竹中製作所

赤羽 祥明・石川 雅康・一島 健・岩田 玲子・江澤 清貴・大黒 晃・大高 一弘・小川 龍・柏原 陽・片岡 尚人・片桐 雅二・加藤 恒彦・川浪 久則・菊池 宏・木本 氏将・楠 麻里子・熊谷 恵・小池 典昭・河野 一郎・木庭 治夫・後藤 謙次・小林 広三・小松 勇二・近藤 紗名・重村 龍也・庄野 志保・鄭 炳表・白土 保・菅 智茂・菅野 清美・菅原 充・鈴木 隆文・鈴木 誠・薄田 一・千貫 りこ・高橋 卓・高橋 靖宏・高橋 幸男・竹井 透・田山 靖・戸田 信一・戸所 弘光・富田 伸一・中嶋 徳彦・中村学・中山 弘敬・成瀬 康・野口 悟・野口 勝・波多野 貞之・平田 雅之・富士 比奈子・藤田 功・古門 慶造・前川 聡・前田 有希・松浦 利男・宮田 博行・村上 修二・山下 清隆・山田 忠・山

本 和人・山森 淳・芳仲 孝夫・若菜 弘充 (敬称略)

(4) 新収蔵資料展「佐々木カメラコレクション」

ア 開催期間：平成27年3月21日(土)～5月6日(水) 41日間

イ 場 所：企画展示室

ウ 入館者数：16,581人

エ 趣 旨

佐々木氏から夫(故人)が収集したカメラ、及び付属品等293点(整理ノート2点含む)が寄贈されたことを記念し、そのコレクションを紹介する。

オ 展示構成

導入で佐々木氏が撮影した写真や著書などを紹介した後、寄贈されたカメラおよびレンズを、「蛇腹カメラ」「箱形カメラ」「二眼レフカメラ」「いろいろなフィルムサイズのカメラ」「外国産の35mmカメラ」「中判・セミ判・大判カメラ」「ライカとローライ」「国産の35mmカメラ」「整理ノートに記載されているカメラ」の種類別に展示した。

展示資料 パーレット等 231点(カメラ214点・レンズ等15点・ノート2点)

カ 展示協力者 佐々木須磨子

(5) 特設コーナー

ア バイオメテイクス ミニ展示(前年度企画展関連展示)

(ア)開催期間：平成27年4月1日(水)～平成27年4月26日(日)

(イ)趣 旨：昨年度実施した開館20周年記念企画展「生物のデザインに学ぶー未来をひらくバイオメテイクスー」の中から6つの内容の展示を行い、持続可能な未来をひらく「バイオメテイクス」研究を引き続き紹介する。

(ウ)展示内容：ゴボウの実/面テープ、ヤモリ/ヤモリテープ紹介映像、モルフォチョウ/構造色繊維、蛾の眼/反射防止フィルム、蚊の針/注射針、ハチドリ/ハチドリ型羽ばたき機構

(エ)入場者数：4,030人

(オ)展示協力：財団法人神奈川科学技術アカデミー、クラレファスニング株式会社、千葉県立中央博物館、千葉県立成田西陵高等学校、千葉大学、帝人株式会社、日東電工株式会社、三菱レイヨン株式会社、株式会社ライトニックス、大阪大学名誉教授中山喜萬

イ オリンピック・パラリンピックで活躍する千葉の匠(車いす編)

(ア)開催期間 平成27年5月2日(土)～6月15日(月)

(イ)入場者数 2,175人

(ウ)主 旨 千葉県内ではオリンピック・パラリンピックを支える世界的技術を持った企業が活躍している。株式会社オーエックスエンジニアリングは、スポーツ用車いすで7度のパラリンピックにおいて大きな成果を発揮している。本展示では、同社の製品及び製造技術を紹介し、オリンピック・パラリンピックを支える千葉発の技術を紹介した。

(エ)展示内容 会社概要、製造工程、活躍する選手、「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」について(パネル)、競技用車いす5点、大人用車いす1点、子供用車いす1点、製造工程途中の部品の展示

(オ)展示協力 株式会社オーエックスエンジニアリング

ウ 国際光年2015 ー宇宙からの光ー

(ア)開催期間：平成27年6月19日(金)～平成27年7月15日(水)

(イ)趣 旨：2015年が国際光年であることを広く周知するとともに、本館所蔵のガリレオの望遠

鏡の展示や、星空観察の情報を提供する機会とする。

(ウ) 展示内容：ガリレオの望遠鏡（レプリカ／館蔵）2点、国際光年の映像

(エ) 入場者数：4,387人

エ みてみて！おもしろいよ!?

(ア) 開催期間：平成27年9月17日（木）～平成27年12月19日（土）

(イ) 趣 旨：錯視を体験することのできる当館の収蔵資料や、古典的な錯視図形を展示する。見ることの不思議を感じてもらい、錯視や見るメカニズムについて興味を持ってもらう機会とする。

(ウ) 展示内容：エビングハウスの図形、ジャストロー図形、ポンゾ錯視、カフェウォール錯視、ヘルマンの格子、フレーザーの渦巻き錯視、ホログラム「海の底」「ライオンの子供」「コンピュータ マウス」「宇宙」、鏡の中の迷路

(エ) 入場者数：15,839人

オ オリンピック・パラリンピックで活躍する千葉の匠（陸上用具編）

(ア) 開催期間 平成27年12月22日（火）～28年1月31日（日）

(イ) 入場者数 9,962人

(ウ) 主 旨 千葉県内ではオリンピック・パラリンピックを支える世界的技術を持った企業が活躍している。株式会社ニシ・スポーツは、陸上競技専門メーカーとして、オリンピックで7大会連続で用具が公式採用されている。特に、船橋市にある自社工場で製造されるハンマー・円盤・砲丸などの投てき用具はアスリートから絶大な支持を得ており、その高い使用率とメダル実績は他のメーカーの追随を許さない。

本展示では、株式会社ニシ・スポーツの製品及び製造技術を紹介し、オリンピックを支える 千葉発の技術を紹介した。

(エ) 展示内容 会社概要、国際大会採用実績・メダル実績、製品の仕様・特徴、ハンマー製造工程（解説パネル）

国際大会採用ハンマー・円盤・砲丸・やり・ハードル

製造途中のハンマーサンプル

投てき競技紹介DVD（撮影協力：国土舘大学陸上競技部）

(オ) 展示協力 株式会社ニシ・スポーツ

(6) ワークショップ

ア パイロット体験

(ア) 開催期間：平成26年4月6日（日）～3月29日（日）の土・日・祝日（学芸課・普及課の行事がある日を除く）と平日の臨時随時体験 延べ58日

(イ) 入場者数：1,184人

(ウ) 趣 旨：平成25年度の特別展に際して、全国科学系博物館活動等助成金の交付を受けて作成した「フライトシミュレーター」を活用して、パイロットの疑似体験をすることによって、楽しみながら航空機の技術に触れ、空に対する夢を膨らませてもらう。

(エ) 展示内容：1日2回（午前・午後各1時間）の時間帯を設け、学芸課職員が体験指導者となり、各回約10名の来館者にパイロット体験を行った。各体験者は成田空港から離陸し、東京方



面あるいは霞ヶ浦方面への飛行（約5分）の飛行を体験した。

2月には、これまでのプロペラ機（YS-11）に加え、ジェット機（MD-11）バージョンを追加した。また、3月からは「F・Sわくワクカード」を発行した。これは、リピーターや大人の体験者の確保、パイロット体験への新しい価値の付加を狙ったもので、1回体験する毎にスタンプを1つ押印し、プロペラ機を5回体験して見極めに合格した者はジェット機に進むことができるシステムである。プロペラ機やジェット機の見極めに合格した者には、「パイロット認定証」と「認定缶バッジ」を贈呈することとしている。

さらに、3月から、平日で団体入館者が無く、対応できる職員が在席している時間に、臨時に随時体験を実施することとした。3月は、2日実施し、9人の体験者があった。

(7) サイエンスドームギャラリー

ア 運用の方針

サイエンスドームギャラリーは、企画展・特別展・収蔵資料展のプレ展示・関連展示の意味をもつもの、収蔵品で小ストーリーを構成できるものなどを選び展示を行う。

イ 施設について

ここは旧映像ホールの映写室であり、通路沿い壁面が強化ガラスで構成された64.4㎡の部屋である。したがって、展示方法はショーウィンドウのような展示空間（入室できないガラス張りの空間）での見せ方をそれぞれの企画で考えて実施している。

ガラス面は1枚の高さ約2,430mm×幅約2,320mmが5枚連なるもので円筒側面の1/7程度の大きさである。そのうちの1枚を搬出入用に観音開きのガラス製ドアとしている。さらに、部屋部分は簡易展示パネルでガラス面側とバックヤードとに仕切り、展示内容に合わせてスペースの増減を行うこととした。また、天井に展示照明用ライティングダクトを5本（2回路）取り付けてある。

ウ 平成27年度実施内容

(ア) 深海展

a 開催期間：平成27年3月31日（火）～7月5日（日）

b 入場者数：30,823人

c 趣 旨：平成26年11月28日に25周年を迎えた有人潜水調査船「しんかい6500」、及び、深海生物を紹介した。あわせて、ペーパークラフトを用意し、親子で楽しみながら工作する機会などを提供することで深海についての興味・関心をもってもらおう機会とした。

d 展示内容：深海生物の映像を4つのモニターで、深海生物の画像をパネル展示した。有人潜水調査船「しんかい6500」と深海生物等のペーパークラフトを展示した。

e 展示協力：独立行政法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
一般財団法人 日本宇宙フォーラム
千葉県立中央博物館

(イ) 博物館実習生による展示 「昔のかたちはなんだろう？」

a 開催期間：平成27年9月11日（金）～平成27年10月4日（日）

b 入場者数：25,762人

c 趣 旨：学芸員資格取得を目指す博物館実習のカリキュラムの一つとして実施した。学芸員の主要な業務に展示会による情報発信がある。自分たちでテーマや展覧会名を決定し、原稿執筆・パネル作成・展示作業を行うことにより、その実務を学ぶことを目

的とした。

- d 展示内容：当館の収蔵資料の中から、かつては一世を風靡し、我々の生活に大きな変化をもたらしたが、現在では製造中止やほとんど使用されなくなったものを選び出し、クイズ形式により紹介した。また、現在において、それらの機能や役割を担っているものと比較することにより、技術の進歩や社会の変化に目を向けさせた。

〔展示資料〕

- 5 インチフロッピーディスク・ディスクトップ型コンピュータ
- 35mmネガフィルム・一眼レフカメラ
- VHS ビデオテープ・ビデオデッキ・テレビ 等

(エ) アマチュア無線機－真空管からトランジスタへ

a 開催期間：平成 28 年 1 月 16 日（土）～2 月 14 日（日）

b 入場者数：10,535 人

c 趣 旨：1960 年代のアマチュア無線機には真空管が使われていたが、やがて一部にトランジスタが使われるようになり、1970 年代には多くの無線機にトランジスタが使われるようになった様子を紹介する。

d 展示内容：真空管が使われた時代のアマチュア無線機 TS-500 (TRIO) や、真空管とトランジスタの両方を使用した FTDX100 (YAESU) , トランジスタ化された初期の無線機である TR5000 (TRIO) などを展示し、真空管からトランジスタに変わる様子を紹介した。併せて、国指定重要文化財「エンボッシングモールス電信機」の複製を展示した。また、会期中は（社）日本アマチュア無線連盟千葉県支部から借用した DVD『楽しいアマチュア無線』を、モニターで上映した。

e 展示協力：（社）日本アマチュア無線連盟千葉県支部

(フ) 房州鎌－飛雀印鎌の 100 年－（県立房総のむら出前展示）

a 開催期間：平成 28 年 2 月 23 日（火）～5 月 8 日（日） 予定

b 入場者数：11,593 人（3 月 31 日までの入場者数）

c 趣 旨：千葉県立房総のむらの企画展『千葉県の鍛冶－鎌と鋏－』の中から、かつて県内で最大規模を誇った房州鎌製造の「飛雀印鎌製作所」にスポットを当て、その歴史や飛雀印鎌の特徴などを紹介する。現代産業科学館には、製鉄産業関係の常設展示があることから、当館サイエンスドームギャラリーでの出前展示となった。

d 展示内容：房州鎌の技術的な特徴や製造工程・歴史を、現存する房州鎌や、飛雀印鎌製作所の定款・印鑑、信州産房州鎌、写真パネル等で紹介した。また会期中は、DVD『房総プロムナード－野鍛冶－』をモニターで上映した。

(8) イベント展示

ア エレクトロカル占い

(ア)開催期間 平成 27 年 12 月 15 日（火）～3 月 13 日（日）

(イ)体験者数 843 組

(ウ)趣 旨 閑散期におけるニッチ層の開拓の一環として、若年層カップルを対象としたエレクトロカル占いを製作・展示した。製作にあたって、千葉県内工業高校電気系職員の協力を得て、その知識と技術を活かし魅力ある展示物とした。

(エ)展示内容 ゼローネを H 型に組み、背面に白色 LED のネットライトとハート型 LED ライトを設置した。体験者は、チケットカウンターで受け取った専用のコインを投入し、2 人で手をつなぎ、片方の手で両サイドのステンレスポールを握ると、微弱な電気が流れ、その時の電圧から電気抵抗を測定し、その値に応じてマイクロコンピュータを介してハートライト型 LED を点灯させる仕組みである。2 月 14 日（日）には、バレ

ンタイムスペシャルイベントとして全ての体験者に記念カードを贈呈した。

- (4) 展示協力 千葉県立千葉工業高等学校 情報技術科 教諭 栗原 利治
千葉県立京葉工業高等学校 電子工業科 教諭 村上 英輝
千葉県立市川工業高等学校 電気科 教諭 服部 貴

3 調査研究事業

(1) 調査研究活動

【共同研究】

ア 報告 平成 27 年度千葉県立現代産業科学館企画展「最先端ネットワークのかたち」について
竹内洋子 佐々木善裕 森 恭一 石井俊正 伊藤 亮 川端保夫
平成 27 年 10 月 17 日(土)から 12 月 6 日(日)まで、情報通信とエネルギーのネットワークについての企画展を開催した。情報通信分野では、国際通信の 99%を担っている光海底ケーブルシステムについて、仕組みや敷設・保守技術などとともに、世界への玄関が成田空港や千葉港だけではないことを紹介した。さらに、インターフェースを中心に最先端技術も紹介した。エネルギー分野では、送配電とガス供給について、情報通信技術(ICT)を活用して限りある資源を有効に利用すべく技術開発が進められている、供給ネットワークやスマートグリッドを紹介した。

【個別研究】

イ 現代産業科学館の、中学校理科授業への活用について

東畑宏之

学力の向上が社会問題となっている今日、学校が科学館・博物館と連携、協力し積極的に活用することは、学習指導要領等で強く求められている。現代産業科学館が持つ、各広場の展示、サイエンスステージ、実験カウンター、人形劇などの教育資源を、中学校理科授業の中で、有効に活用されるための学習支援の在り方について考察した。

ウ 「伝えたい千葉の産業技術 100 選」の調査

村井克行

今年度から千葉県における歴史的産業技術を次世代へ継承することを目的とした「伝えたい千葉の産業技術 100 選」を創設した。これは現代産業科学館が事務局となって登録原案を作成し、当館の展示・運営協力会理事会が選定委員会となり決定するものである。今年度行った調査対象資料の分類及び登録原案の作成について報告する。

エ 常設展示場「先端技術への招待」～スーパーカミオカンデ関連展示の更新をとおして～

生井敏昭

開館して 20 年を過ぎた当館の常設展示場「先端技術への招待」。最先端の科学を紹介するために、展示更新を進める中、今年もノーベル物理学賞受賞という大きなニュースが入ってきた。当館で展示していた光電子増倍管に加えて、この度、スーパーカミオカンデで観測している情報をリアルタイムで表示できるイベントディスプレイを設置することができた。「毎日進化する科学館」を目標にしている当館の魅力スーパーカミオカンデ関連展示の更新を中心に紹介する。

オ 報告 広報媒体を有効活用するための事例考察 ―平成 27 年度の事例をもとに―

石渡克彦

近年博物館運営に係る予算が減少するなかで、より効果的な広報を行うためには戦略が必要であり、活用する媒体の特質や効果などを十分に知ることが重要である。本稿は平成 27 年度の事例をとりあげ、それに係る広報媒体に注目して分析し考察を行うことで、媒体を有効活用するための基礎研究としたい。

カ 千葉県立現代産業科学館における来館者サービス ー展示解説員としてできることー

篠崎満理佳

千葉県立現代産業科学館における展示解説員の役割や業務に関して述べるとともに、主に来館者サービスに焦点を当て、5年間展示解説員として勤務した中で、業務を行う上で心がけていることや解説時に行う工夫などをまとめた。

(2) 収集保存活動

平成27年度に新たに登録された資料は無く、収蔵庫内の資料の確認・整理作業を行った。

4 展示・普及事業等

(1) 事業実施状況

事業	種別	形態	番号	初年度	項目	内容	参加者	日数	期日等
展示	展示会	主催	1	H6	常設展示	①現代産業の歴史	152,686	309	開館日
						②先端技術への招待			
						③創造の広場			
			2	H6	企画展 (プラネタリウム上映会)	最新の投影機器による星空の映写会	15,766	19	8/4-24
			3	H25	企画展	企画展「最先端ネットワークのかたち」	7,264	44	10/17-12/6
			4	H25	その他の展示会	展示運営協力会以外の特設コーナー展示・ワークショップ展示・エントランスコーナー展示	80,926	197	4/1-4/29 5/2-6/15 6/19-7/12 9/17-12/19 12/22-1/31
			5	H16	サイエンスドームギャラリー展示	収蔵資料・写真を中心とした展示-企画展等の紹介となる展示, 数年継続するシリーズ展示等	95,906	154	4/1-7/5 7/18-8/30 9/11-10/4 1/19-1/31
			6	H24	全日本学生児童発明くふう展	全国の小中学生の発明工夫展における入賞作品に関する作品展示	16,159	35	6/20-31
			7	H17	企画展関連・イベント絵画展	県内少年少女発明クラブへ航空展関連の絵画を募集する	7,264	44	10/17-12/6
8	H10	市川市児童生徒科学展	市川市内小中学生が夏休みに制作した科学作品の展示	4,092	2	9/5-6			
9	H10	五市中学校合同技術家庭科作品展	葛南教育事務所管内(船橋, 市川, 浦安, 習志野, 八千代市) 中学校技術家	940	5	1/20-1/24			

					庭科作品の展示						
		10	H15	展示・運営協力会 連携事業	①展示会「これでわかつた！未来の技術 2015」	18,572	15	8/7-8/23			
		11	H20		②特設コーナー展示会	10,265	38	7/18-8/30			
		12	H23	市川工業高校インテリアデザイン同好会連携事業	クリスマス装飾・作品展	2,747	8	12/17-/25			
		13	H24	市川工業高校インテリア科連携事業	卒業作品展	415	2	2/20-21			
		14	H26	市川工業高校建築科連携事業	作品展	393	4	5/23-31 土日			
展示解説	主催	15	H6	展示解説	①人形劇・科学実験・サイエンスビデオ	19,867	309	平日3回 土日祝5回			
		16			②放電実験	28,033	309	1日4回			
		17			③新素材実験	7,434	309	平日3回 土日祝4回			
		18			④極限環境実験	12,607	309	平日3回 土日祝4回			
		19	H14		⑥展示解説ツアー	587	27	随時・要予約			
					⑦解説タイム	978	174	1日2回			
		20	H23		⑨ジームスタイル	240	22	土日祝			
		教育普及	講座		21	H17	出張講座	小中学生, その指導者を対象とした館外での工作教室, 講座	1,531	21	5/14, 7/14, 17, 20, 23, 25, 28, 29, 31, 8/28, 9/25, 10/3, 4, 17, 11/17, 19, 21, 12/5, 15, 23, 1/19
											22
					23	H18	県教育委員会連携事業	公立小中学校等初任事務職員研修会	22	1	10/28
24	H21			県総合教育センター連携事業	小学校理数教育実践研修 小学校の理科と算数の学習を連携できる題材を生かし, 理数教育という方向からの指導内容と指導方法について実践的な研修を行い, 指導力の向上を図る	24	1	8/19			

		25	H19	市川市教育委員会連携事業	理科主任会	55	2	5/20-21
		26	H22	県総合教育センター連携事業	千葉県児童生徒・教職員科学作品展展示審査員	1	1	10/9
工作教室・乗車会・体験教室	主催	27	H17	小・中学生団体向け工作教室	来館した小・中学生等団体対象の工作教室	637	21	5/21, 6/15, *7/4, 7/11, 7/20, 7/28, 8/29, 10/6, 10/23, 11/15, 11/25, *12/4, 12/24(*2回実施), 2/12, 3, 25, 29
		28	H7	ゴールデンウィーク科学館フェア2015	①工作教室	606	5	4/26, 29, 5/2, 3, 4
		29			②タリップ号乗車会（雨の場合 工作教室等実施）	321	2	4/25, 5/5
		30			③たんけん!!科学館	215	4	5/3-6
		(46)			④T型フォードの乗車会	140	1	5/6
		31	H21	オータム・フェア in 科学館 2015	①親子で楽しめる工作教室	522	5	9/13, 19, 20, 21, 23
		32			②タリップ号乗車会（雨の場合 工作教室等実施）	241	1	9/22
		33			③たんけん!!科学館	191	3	9/19-21
		34	H20	クリスマス in 科学館 2015	①工作教室(科学館子ども教室として)	246	5	12/5, 6, 13, 20, 23
		35	H22	スプリング in 科学館 2016	①工作教室	191	2	3/12-21 予定
		36			②タリップ号乗車会（雨天 工作教室等）	107	1	
		37			③たんけん!!科学館	227	5	
		38	H24	お楽しみワークショップ	親子で楽しめる工作教室	295	3	4/5, 12, 5/4
		39	H15	国際博物館の日記念事業	工作教室	25	1	5/17
		40	H21	環境学習推進事業	工作教室等（ソーラーカー体験等）	34	1	8/1
		41	H7	近隣3施設連携事業 「鬼高さんしや祭」関連イベント	パフォーマンスライブ, おもしろ撮影スタジオ, ロボット操作実演, ガラスペンダント作り, 鉱石ラジオ	2,500	1	10/25
42	H21	いちかわ環境フ	小・中学生を対象にした	17	1	10/3		

		フェア関連事業	科学実験等 (科学館子ども教室として)			
43	H19	【企画展関連事業】 工作教室	企画展関連の工作教室	195	4	8/29 10/18 10/25 11/8
44	H7	県民の日・開館記念日記念事業	①工作教室	357	1	6/15
(47)			②ブリタニア号乗車会	160	1	
45	H17	文化の日記念日記念事業	工作教室	90	1	11/3
46	H23	T型フォード乗車会	T型フォードの乗車会 (GWフェアでの実施を含む, 年間6回程度)	757	6	5/6, 24, 12/12, 1/10, 31, 3/20
47	H23	ブリタニア号乗車会	ブリタニア号の乗車会 (県民の日・開館記念日記念事業での実施を含む, 年間3回程度)	229	2	6/15, 1/23
48	H25	パイロット体験	フライトシミュレーターを使ったパイロット体験	1,059	61	随時開催
49	H19	夢チャレンジ体験スクール (サイエンススクール) 県生涯学習課連携事業	工作教室	95	2	7/25, 26
50	H22	さわやかちば県民プラザ連携事業	さわやかちば県民のプラザを会場とし, 科学工作の製作をおし, 児童生徒の科学に対する興味・関心を育てるとともに東葛地区の学校や地域社会での積極的な体験活動を促す。	58	2	7/23, 12/5
51	H20	宇宙航空研究開発機構 JAXA 連携事業	工作教室 (科学館子ども教室として)	89	3	6/7, 12/5, 1/7
52	H22	日本鉄鋼連盟連携事業 ワクワク実験隊「鉄の不思議教室」 (休止)	実験ショーと工作教室 (休止)			
53	H22	東邦大学連携事業 「たのしい科学のひろば」	東邦大学を会場とし, 科学工作の製作をおし, 児童生徒の科学に対する興味・関心を育てるとともに津田沼地区の学校や	100	1	12/23

				地域社会での積極的な体験活動を促す。				
		54	H17	NPO 法人暮らしとバイオプラザ21 連携事業	①親子バイオ入門実験教室	32	1	8/2
		55			②キッチンサイエンス(科学館子ども教室として)	24	1	10/4
		56			③バイオカフェ	22	1	11/1
		57	H18	土器ッと古代宅配便	勾玉と鹿角ペンダントの製作体験	219	3	6/14, 7/2, 12/5, 2/21
		58	H17	展示・運営協力会展示会関連事業	①実験・工作教室	1,006	19	7/19, 22, 29, 30, 31, 8/1, 8, 11, 25, 28, 9/5, 11/14, , 28, 29, 2/11, 20
		59	H11		②サイエンスショー	623	5	7/24, 28, 8/8, 29, 9/27
		60	H19	木更津工業高等専門学校連携事業	木更津高専の生徒が製作したロボットの展示・操縦体験と中学生・保護者向け説明会	90	1	8/1
		61	H25	航空協会連携事業	こども模型飛行機教室	48	2	6/21, 1/16
	財団	62	H19	科学館子ども(わくわく)教室	講座・工作教室	2,152	26	4/26-
	主催	63	H19	プラネタリウム講演会	大平貴之氏による講演又は解説	1,034	2	8/9, 16
	連携	64	H17	展示・運営協力会展示会関連事業	講演会	124	1	11/21
	コンサート	65	H22	ミュージアムコンサート	ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉による室内楽の演奏	155	1	7/20
	主催	66	H6	クリスマスコンサート	室内楽の演奏	104	1	12/24
	イベント	67	H7	近隣3施設連携事業「鬼高さんしや祭」	3施設(当館, メディアパーク市川, ニッケコルトンプラザ) 合同事業	2,500	1	10/25
	連携	68	H17	いちかわ産フェスタ	市川市内の地元産業の紹介	8,616	1	9/12
	連携	69	H21	いちかわ環境フェア	環境情報の提供や環境に関する知識の普及, 環境	8,800	1	10/3

				学習へのきっかけづくり，市民団体等の環境活動の発表の場の提供				
		70	H23	クラシックカー・スポーツカー in 科学館	歴史や世相をつくり上げてきたクラシックカーやスポーツカーを展示し，広く県民に知らせることにより石油産業や科学技術の歴史を知る機会とする	1,410	1	3月13日
		71	H23	子どもがつくるまち「ミニ★いちかわ2015」	子どもが市民となり，自分のやりたい仕事を自由な発想と工夫で行うキャリア教育活動	7,162	2	9/26, 27
		72	H26	教員のための博物館の日	幅広い層の教員対象に，博物館の教育資源を知ってもらうとともに，親しみ，楽しむ機会を提供する	28	2	8/26, 27
学校教育支援	主催	73	H13	職場体験・インターンシップ	中学校・高等学校生徒の職場体験・インターンシップ受入	3	3	7/22-24
		74	H13	教科学習・総合的な学習の時間支援	博物館を利用した学校教育活動を支援	0	0	
		75	H8	博物館実習	学芸員資格修得のための実習生受け入れ	9	8	9/2-11
		76	H22	「授業に役立つ県立博物館」プロジェクト	学校等にソーラークッカー，エレキテル等の貸出を行う	264	8	6/24-
	連携	77	H22	教職員博物館体験研修	博物館の利用促進を図るための教職員対象の研修	4	5	7/25-
		78	H23	東邦大学連携博物館教育利用実習	教員志望者に対する科学館展示概要と利用法の講義と見学	0	0	
		79	H17	高等学校単位認定支援事業	学校外の学修としての博物館業務に関する講座	151	10	5/23-
広報	主催	80	H6	刊行物の作成・配布	広報資料の刊行・館外における広報資料の配布等の活動			通年
		81	H6	情報提供	報道機関等関係機関への情報提供・取材対応			通年
		82	H17	メールマガジン	メールマガジンの作成・配信等			12
		83	H6	外部広報活動	館外における広報資料の配布配布等の活動			随時

情報提供	情報提供	84	H6	図書資料の収集・提供	図書資料による情報提供				
		85	H19	夏休み科学相談コーナー	夏休みの自由研究等への対応			夏休み期間中	
		86	H4	博物館情報ネットワーク	博物館情報ネットワークによる情報提供			通年	
		87	H15	ホームページの運営	ホームページによる情報提供			通年	
		87-1	H27	レファレンス(仮称)	利用者の科学一般に関する質問への回答、及びその内容の記録・整理・集積				
調査研究	調査研究	88	H6	常設展示に関する事	調査研究			通年	
		89	—	次年度以降企画展に関する事	次年度以降企画展				
		90	H6	産業技術調査	千葉県(近代)の産業(工業)・交通・土木等に関する調査				
		91	H6	調査研究に関する事	館の活動に関する総合研究・共同研究・個別研究の計画策定及び実施			通年	
		92	H6	研究報告に関する事	研究成果のまとめ			通年	
		93	H6	資料調査・収集活動	館の活動に関する資料の調査・収集				
		94	H6	資料の保存・管理活動	活用しやすい所蔵資料の管理システムを構築				
				95	H13	千葉学講座	博物館専門職員による研究成果の発表		
	連携	96	H22	合同企画事業(検討中)	「授業に役立つ県立博物館」プロジェクト貸出キット作製及び次年度計画検討・作成				
連携協力	ボランティア	主催	97	H17	ボランティア	ボランティアを育成し、博物館事業に参加			通年
	販売	財団	98	H6	ミュージアムショップ	科学関連グッズの販売を通じ科学への興味関心を喚起			土日祝の午後
	展示・運営協力会	連携	99	H6	展示・運営協力会	①展示事業への指導・助言及び支援 ②館の依頼による調査協			理事会2回 会・講演会

					力			
					③会員相互の交流活動			
	友の会	支援	100	H6	友の会	館事業への支援・協力(休会中)		

(2) 広報活動

館の活動等を広く紹介するため、見学のしおり、イベント情報のほか、企画展ポスター、チラシ、科学館ニュースなどを作成した。これらの刊行物は、県内の各学校、教育機関、県内外の類似施設、マスコミ、関係機関などに送付し、広報活動を進めてきた。

平成27年度 刊行物及びリーフレットの種類

No.	刊行物及びリーフレット	部数	サイズ	担当課
1	展示・運営協力会チラシ	35,000部	A4判	学芸課
2	プラネリウム「悠久なる星の海へ」ポスター	2,000部	B2判	普及課
3	プラネリウム「悠久なる星の海へ」チラシ	60,000部	A4判	普及課
4	平成27年度 下半期イベント情報	30,000部	100×210 (A4三つ折り)	普及課
5	科学館ニュース No38	17,000部	A4判 (A3見開き)	普及課
6	企画展「最先端ネットワークのかたち」ポスター	2,500部	B2判	学芸課
7	企画展「最先端ネットワークのかたち」チラシ	30,000部	A4判	学芸課
8	企画展「最先端ネットワークのかたち」展示解説書	4,000部	A4判 (A3見開き)	学芸課
9	クラシックカー・スポーツカーin 科学館 チラシ	6,000部	A4判	普及課
10	平成28年度 上半期イベント情報	30,000部	100×210 (A4三つ折り)	普及課
11	見学のしおり	60,000部	99×205 (397×205 観音折り)	普及課

5 情報提供活動

(1) 図書資料の収集・提供

当館の図書資料は、館の趣旨に沿って自然科学、技術、工学、工業を中心とした図書及び国内の博物館、研究機関等関連施設の刊行物を収集し、これらの情報を来館者へ提供している。また、企画展等イベントの際には、関連図書の紹介を図書室で行っている。

当館の図書室及び書庫合わせての蔵書収容能力は、約27,000冊である。平成27年3月現在の蔵書数は約15,500冊であり、雑誌は約60タイトルを数える。

(2) レファレンス活動

年間を通じて随時、次のような利用者の質問への回答及び情報を提供している。
なお、今後、その内容の記録、整理、集積を行っていく。

- ①常設展示及びイベントに関する情報
 - ②他の博物館及び博物館資料に関する情報
 - ③映像、図書資料に関する情報
 - ④科学一般に関する情報
- (3) ホームページ

常に新しい情報を発信すべく、イベントを実施した日のうちに次回のポスターを掲載したり、イベントの様子を紹介したりするように心がけた。

ホームページへのアクセス数を見ると、前年度比約 62%である。大きな要因としては、プラネタリウムの観客減が挙げられる。アクセス数こそ減少したものの、工作教室で実施したアンケートでは、参加者の 3~4 割がホームページを見て工作教室を知ったと回答しており、広報媒体として果たしている役割は大きいといえる。

6 連携・協力事業

(1) 展示・運営協力会

千葉県立現代産業科学館展示・運営協力会は、千葉県立現代産業科学館の展示及びこれに関わる教育普及・調査研究等の活動をより発展させるため、館の活動の趣旨に賛同し、専門的知識を有する団体及び個人が、館の行う科学技術の普及に対し支援及び助言を行うことを目的に活動している。

ア 常設展示協力

館の常設展示に関する技術的指導や情報提供等を行ったほか、展示物の提供や展示のための調査・研究活動に対する支援、助言を行った。

イ 企画展・企画展示協力

協力団体として以下の会員が企画展に関する展示及びイベント開催の協力を行った。

協力団体

会員名	事業	主な協力内容	開催日
東京ガス(株) 京葉ガス(株)	企画展示室展示	展示資料, 画像, 映像, 解説パネルデータ	10月17日～ 12月6日
東京電力(株)	企画展示室展示	展示資料, 画像, 解説パネルデータ	10月17日～ 12月6日
日本電気(株)	企画展示室展示	映像	10月17日～ 12月6日
(株)フジクラ	企画展示室展示	展示資料, 画像	10月17日～ 12月6日
東日本電信電話(株)	行事实施	可搬型ポータブル衛星装置展示	10月24日～ 10月25日

ウ 展示会 第13回「これでわかった！未来の技術 2015－最先端テクノロジーにふれてみよう－」

(ア)開催期間：平成 27 年 8 月 7 日(金)～8 月 23 日(日)(開催日数 15 日間)

(イ)場 所：企画展示室

(ウ)入場者数：18,572 人

展示出展団体

会員名	概要・タイトル等
出光興産株式会社	出光興産の研究開発と事業領域について紹介します

千葉大学工学部	福島第一原発の汚染水処理で活躍する千葉大発の最先端吸着繊維
サイエンススタジオ CHIBA (千葉大学教育学部)	才能あふれる理系人材の未来を支援する
公益財団法人 かずさDNA 研究所	「生命の設計図」といわれるDNAについて
千葉県産業支援技術研究所	ものの中身をのぞいてみよう！ ～X線CT装置で非破壊観察～
一般財団法人 電力中央研究所	研究トピックスとして風雪害研究を紹介します
日本電気株式会社	笑顔パワーゲーム(笑顔の採点)
双葉電子工業株式会社	ホビーが育てる未来の技術！
DIC株式会社	Color & Comfort by Chemistry (化学で彩りと快適を提案する)
株式会社フジクラ	「“つなぐ”テクノロジーの分野で未来をひらく」技術と商品 を紹介します。
マブチモーター株式会社	～夢に力を～ モーター、それは夢を動かす原動力

エ 講演会

企画展期間内に関連イベントの1つとして実施した。様々な体験活動を取り入れながら情報のことについて学べる、大人にとっても子どもにとっても分かりやすい講演会であった。

(ア)日 時：平成27年11月21日(土)

(イ)演 題：「わくわくどきどきおもしろ情報たいけん」

(ウ)講 師：土肥紳一教授 (東京電機大学情報環境学部情報環境学科)

(エ)場 所：サイエンスドーム

(オ)参加者数：124人

オ 実験・工作教室

会員が専門とする分野に関する実験や工作を、参加者体験型の方法で実施する。1講座60分から90分程度。

実験・工作教室 (参加人数 計531人)

会 員 名	内 容	実施日	曜	対象	参加人数
当館職員	お部屋で楽しめるプラネタリウムを作ろう	7月19日	日	小中学生	40
当館職員	アナモルフォーシス(ひずみ絵)を作ろう	7月22日	水	小中学生	21
工学院大学	光るオリジナルメモスタンドをつくろう ～はんだ付けで好きな形のメモスタンドを作ります～	7月29日	水	小中学生	40
個人会員	磁石の性質の実験と磁石おもちゃづくり	7月30日	木	小中学生	46
個人会員	箱形クリップモーターを作ろう ～モーターの回るしくみ～	7月31日	金	小中学生	47
千葉工業大学	二足歩行ロボットを操縦してみよう	8月1日	土	小学生	38
(公財)かずさDNA研究所	DNAってなんだろう？ ～実際に“DNA”を取り出し	8月8日	土	小中学生	20

	てみよう～				
(一財)電力中央研究所	かわいいたこが踊りながらまわる～くるくる踊るたこを作ろう～	8月11日	火	小学生	76
京葉ガス(株)	ものの燃え方と炎のチカラ	8月25日	火	小学 4～6年生	20
東京電機大学	頭のよくなる立体モデルづくり！～不思議な立体を組み立ててみよう～	8月28日	金	小中学生	42
マブチモーター(株)	モーターで動く木のくるまを作って走らせよう！	9月5日	土	小学 6年生以下	40
千葉大学	タンパク質を解析しよう～たんぱく質の量の違いを色で見よう～	11月14日	土	小中学生	11
日本大学生産工学部	親子で実験しよう～人工イクラ、スライム、光をつくろう～	11月28日	土	小学生	27
東邦大学	科学を楽しく体験しよう！～いくつかの実験工作や観察などを順番に体験できます～	11月29日	日	小中学生	23
当館職員	ミニ天体望遠鏡をつくろう	2月20日	土	中学生 以下	40

カ サイエンスショー

会員が専門とする分野に関する実験や工作を、ショー形式で1回の上演は30分程度で実施する。
サイエンスショー (参加人数 計623人)

会員名	内容	実施日	曜	参加人数
(株)マイクロテック・ニチオン	液体の中をのぞいてみよう！ ～小さな粒子のはたらき～	7月24日	金	125
千葉工業大学	鉄が燃えるってほんと？ ～鉄も工夫すれば燃えるよ～	7月28日	火	110
(公財)かずさDNA研究所	DNAってなに？ ～実際にDNAを見てみよう～	8月8日	火	126
キッコーマン(株)	ホテルの光とバイオテクノロジー ～ホテルの光を体験してみよう～	8月29日	土	122
出光興産(株)先進技術研究所	光のマジックショー ～色と光の不思議(ファンタジー)～	9月27日	日	140

キ 特設コーナー展示

今までの展示会では、期間の都合等で紹介できなかった技術や製品、また、環境への取り組み等を、年間をとおして紹介し、各企業、大学、研究機関等の活動を幅広く県民に知ってもらう場として特設コーナー展示を実施した。

展示・運営協力会の会員であり、昨年度は展示会に展示協力いただいた日本大学生産工学部創生デザイン学科の生徒作品を中心とした展示を行い、同学科の学習内容の一部を紹介した。

特設コーナー展示

会員名	主な内容	開催日	入場者数
日本大学 生産工学部 創生デザイン学 科	デジタル×テクノロジー×アート 生徒作品 (鋳造品, ウェアラブル端末, Parametric Urban Design モデル, 模型), パネル	7月18日 ～ 8月30日	10,265人

ク 理事会・総会の開催

総会を8月21日に、理事会を8月21日、3月1日の2回にわたり開催した。会の内容は、9月と3月に発行した「展示・運営協力会だより」で、その都度報告した。

(2) 「授業に役立つ県立博物館」プロジェクト

「授業に役立つ県立博物館」プロジェクトで制作した学習キットについては、年間を通して、随時貸出しを行った。また、教員のための博物館の日や千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会夷隅大会等において広報活動を行なった。

ア ソーラークッカーキット

平成27年度	学校等への貸出実績	4回
	館事業での使用(体験教室など)	1回
	広報活動使用	4回

イ エレキテル模型キット

平成27年度	学校等への貸出実績	2回
	館事業での使用(体験教室など)	0回
	広報活動使用	4回

ウ 圧電発電キット

平成27年度	学校等への貸出実績	1回
	館事業での使用(体験教室など)	0回
	広報活動使用	4回

エ 太陽光発電キット

平成27年度	学校等への貸出実績	1回
	館事業での使用(体験教室など)	0回
	広報活動使用	4回

(3) ボランティア

当館では平成17年度より、県民参加による博物館事業の推進及び県民の生涯学習に資するために、博物館ボランティアを設置している。ボランティア登録人数、参加事業数、活動件数は下記の通りである。

登録人数 36名

活動内容

- ①各種講座・工作教室等の指導補助
- ②各種イベント時における来館者の案内・誘導
- ③図書室での図書整理、蔵書点検
- ④博物館資料整理作業の補助
- ⑤総会 年1回
- ⑥その他 (東邦大学教員養成課程学生の協力)

活動件数のべ 435 件

(4) 地域連携等事業

ア 公益財団法人千葉県教育振興財団との連携事業

(ア) 科学館子ども教室

だれもが産業に応用された科学技術を体験的に学ぶことのできる場を提供することを目的とし、小・中学生の科学に関する興味・関心を高めるため、科学工作教室や、講座などの体験活動を行った。

a 主 催： 県立現代産業科学館

b 共 催： 公益財団法人千葉県教育振興財団

科学館子ども教室 実施一覧 対象：中学生以下（小学3年生以下保護者同伴）

	実施日	曜	内 容	定員	参加人数	参加費
b	4月26日	日	ふうせんスライムをつくろう	140	85	100
b	4月29日	水	ふうせんスライムをつくろう	140	127	100
b	5月2日	土	化石のレプリカをつくろう	200	107	100
b	5月3日	日	化石のレプリカをつくろう	200	114	100
b	5月17日	日	スルリとぬけるまぼろしの壁（スルリン）をつくろう	50	25	200
a	6月7日	日	アルコールロケットをとばそう （JAXA 連携事業）	25	28	50
a	6月15日	月	化石のレプリカをつくろう	200	357	50
a	6月28日	日	発光ダイオードを使ってミニライトをつくろう	50	54	250
a	7月5日	日	工夫工作に使える!?「電気ブランコ」をつくろう	50	49	250
a	7月18日	土	きらきらミラーキューブ（万華鏡）をつくろう	50	53	150
a	9月6日	日	光るスライムをつくろう	75	79	150
a	9月13日	日	打ち上げグライダーをつくろう	50	52	50
a	9月19日	土	ゆがむ自動車と浮かぶサイコロをつくろう	50	53	50
a	9月23日	水	不思議な魔境をつくろう	50	50	150
a	10月3日	土	発光ダイオードを使ってミニライトをつくろう	50		250
a	10月12日	月	反射式手作りカメラをつくろう	50	50	250
a	11月3日	火	ぼよよん不思議なバネ電話をつくろう	75	90	150
a	12月6日	日	オリジナルキャンドルをつくろう	48	47	350
a	12月13日	日	静電気をためてミニミニかみなりと電気クラゲをつくろう	48	46	150
a	12月20日	日	冬休みに遊べる和風をつくろう	40	40	250
a	1月11日	月	ガリレオ温度計をつくろう	48	45	350
a	1月17日	日	家族で協力して熱気球をとばそう （JAXA 連携事業）	40	35	50
a	1月24日	日	不思議マジック「登り虫」をつくろう	48	38	350
a	2月7日	日	オリジナルスノードームをつくろう	48	72	300
a	2月14日	日	コパルを磨き生物を発見しよう	48	48	350
a	2月28日	日	葉っぱの化石をみつけよう	48	43	150

b	3月1日	火	マクラメでビーズアクセサリーをつくろう	60	32	200
b	3月2日	水	マクラメでビーズアクセサリーをつくろう	60	26	200
b	3月5日	土	オリジナルスノードームをつくろう	72	69	300
b	3月6日	日	葉っぱの化石をみつけよう	48	54	150
b	3月19日	土	ふうせんスライムをつくろう	140	88	50
b	3月21日	月	化石のレプリカをつくろう	140	103	50

(イ) ミュージアムコンサート

「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」によるミュージアムコンサートを行った。

a 実施日：平成26年7月21日 14時～15時20分（開場 13時30分）

b 名称：「心潤う海の日コンサート」

c 場所：サイエンスドーム

d 演奏：ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉（歌と室内楽）

ソプラノ歌手：横山美奈 ヴァイオリン：本庄篤子

チェロ：若狭直人 電子ピアノ：横山歩

司会：中里かほり

e 入場料：無料

f 参加者：149人（定員：240人）

(ウ) クラシックカー・スポーツカーin 科学館

本県の基幹産業の一つである石油産業に貢献している自動車産業や工業技術の歴史を知る機会として、クラシックカーやスポーツカーの展示を行った。

概要は以下のとおりである。

a 日時：平成28年3月13日（日）10:00～15:00

b 主催：千葉県立現代産業科学館、

c 共催：公益財団法人千葉県教育振興財団

d 協力：(有)ガレージュアサ

e 場所：サイエンス広場

f 内容：クラシックカーおよびスポーツカーの展示

48台（当館所蔵T型フォードを含む）

g 対象：一般

h 参加者数：2500人

(エ) 出張講座

博物館における学習資源の有効活用と博物館事業の活性化を図るため、小・中学校等の依頼により児童・生徒又はその指導者を対象として、科学教室及び工作教室を館外で実施した。

出張講座 実施一覧

実施日	曜	内容	団体・会場	参加人数
5月16日	土	ふうせんスライム	船橋市中央公民館	24
7月12日	日	ソーラークッカー	鎌ヶ谷市教育委員会	59
7月14日	火	ふうせんスライム 自由研究の進め方	我孫子市立第一小学校	93
7月17日	金	ふうせんスライム	市川市立富貴島小学校 保育クラブ	82
7月25日	土	ふうせんスライム スルリン	四街道市四街道公民館	29

7月28日	火	スルリン	船橋市西部公民館	20
7月28日	火	ふうせんスライム	プラウド船橋コミュニティクラブ	20
7月29日	水	コパル	千葉市おゆみ野公民館	20
7月31日	金	ふうせんスライム スルリン	習志野市屋敷公民館	24
8月28日	金	ふうせんスライム スルリン	佐倉市宮ノ台一丁目子ども会	27
9月25日	金	ふうせんスライム	鎌ヶ谷市立南部小学校	48
10月3日	土	スルリン	船橋市塚田公民館	15
10月4日	日	LEDミニライト スルリン	松戸市少年少女発明クラブ	40
10月17日	土	ふうせんスライム スルリン	親子で楽しく外遊び 青空っ子 (葛飾区)	12
11月8日	日	スルリン	東邦大学 東邦祭実行委員会	18
11月19日	木	サイエンスショー	旭市立中央小学校	538
11月21日	土	化石のレプリカ	我孫子市立根戸小学校	131
12月15日	火	ふうせんスライム	葛飾区立上千葉小学校 科学クラブ	28
1月19日	火	スルリン	葛飾区立上千葉小学校 科学クラブ	28

(ウ) 団体工作教室

博物館における学習資源の有効活用と博物館事業の活性化を図るため、小・中学校の依頼により児童・生徒を対象として、団体見学と併せて工作教室を実施した。

a 主 催： 県立現代産業科学館

b 共 催： 公益財団法人千葉県教育振興財団

団体工作教室 実施一覧

実施日	曜	団体名	内容	参加人数
5月9日	日	香取市立竟成小学校	化石のレプリカ	20
5月23日	土	香取市立小見川北小学校	化石のレプリカ	36
6月18日	水	千教研船橋支部小学校理科部会	化石のレプリカ	46
6月19日	水	習志野市立実籾小学校	化石のレプリカ	77
6月21日	水	印西市立そうふけ公民館	するりと抜けるまぼろしの壁(スルリン)	27
8月1日	水	印西市立そうふけ公民館	するりと抜けるまぼろしの壁(スルリン)	12
9月26日	日	成田市立津富浦小学校	ふうせんスライム	34
10月3日	日	習志野市立谷津南小学校	ふうせんスライム	67
10月25日	水	わんぱく子ども会	偏光板をつかったステンドグラス	26
11月8日	水	地域子ども研究会 あらぐさ	ふうせんスライム	33
11月12日	水	横芝光町立横芝小学校	化石のレプリカ	66
11月16日	水	新松戸東子ども会	ふうせんスライム	18
11月22日	水	南行徳公民館	不思議なステンドグラス	16
12月23日	水	市川市青少年相談員b地区	スルリン・ふうせんスライ	

			ム	46
12月25日	金	上の台小学校子どもルーム	ふうせんスライム	45
12月26日	土	花園小学校子どもルーム	ふうせんスライム	61
1月16日	土	習志野市立袖ヶ浦東小学校	ふうせんスライム	52
2月10日	火	菅野小保育クラブ	化石のレプリカ	45
2月24日	火	明海南小学校特別支援学級	化石のレプリカ	4
3月25日	水	宮ノ台一丁目子ども会	化石のレプリカ	37
3月25日	水	結まあーる	化石のレプリカ	48
3月25日	水	横須賀学童クラブ	化石のレプリカ	62
3月26日	木	上高野学童保育所	スルリン	15
3月26日	木	上高野学童保育所	ふうせんスライム	29
3月27日	金	関場町子ども会	化石のレプリカ	36
3月27日	金	千城台東小子どもルーム	化石のレプリカ	51

イ 教育機関・学校等との連携事業

(ア) 県教育委員会生涯学習課 千葉県夢チャレンジ体験スクール「サイエンススクール」

県教育委員会生涯学習課が実施している千葉県夢チャレンジ体験スクール「サイエンススクール」として下記の事業を実施した。

なお、スクールの募集は生涯学習課が行った。

a 日 時：平成27年7月25日（土）・26日（日）

b 主 催：県教育委員会生涯学習課

c 共 催：県立現代産業科学館

d 場 所：体験学習室

e 内 容：「ペットボトルエコライトをつくろう」

f 対 象：小・中学生

g 定 員：100人

h 参加費：282円

i 参加者数：95人

(イ) 土器ッと古代宅配便 一勾玉や鹿角ペンダントをつくろう

県教育委員会が教育普及活動の一環として実施している「土器ッと古代宅配便」事業に連携して勾玉や鹿角ペンダントを作る工作教室を開催した。

材料の調達及び準備は当館が行い、指導は県教育委員会教育振興部文化財課職員、指導補助を当館の職員及びボランティアが担当した。

月 日	時 間	定 員	参加者数	参加費 (保険代含)	実施場所
6月14日（日）	10:00～, 13:30～	各回30人	49人	300円	エントランスホール
7月12日（日）	10:00～, 13:30～	各回30人	61人	300円	エントランスホール
12月5日（土）	10:00～, 13:30～	各回30人	47人	300円	エントランスホール
2月21日（日）	10:00～, 13:30～	各回30人	62人	300円	エントランスホール

(ウ) 総合教育センター 小学校理数教育実践研修

小学校の理科と算数の学習を連携できる題材を生かし、新学習指導要領の主な改善事項の1つである理数教育の充実という方向からの、指導内容と指導方法についての実践的な研修を行った。

a 日 時：平成27年8月19日（水）

b 講 師・出演者など：市川市立大野小学校教諭 齋藤直人氏
千葉県立現代産業科学館主任上席研究員 須賀伸吾

c 主 催：県総合教育センター

d 共 催：県立現代産業科学館

e 場 所：体験学習室，展示フロア

f 内 容：理数教育の充実に向けた考え方
科学館でのワークショップの紹介と実践
館内展示見学と実践
算数の授業と理科の授業の内容を活かした授業プランの紹介と実践
学習プログラムの検討

g 対 象：1年を経過した小・特別支援学校教員

h 定 員：24人

i 参加者数：24人

(エ) さわやかちば県民プラザ連携事業

さわやかちば県民プラザが地域貢献の一環として実施している小学生向け子ども科学教室に協力し、工作教室の指導を行った。

a 内 容：工作教室「不思議な動き?! 登り虫をつくろう」

b 実施日：平成27年7月23日（木）

c 場 所：さわやかちば県民プラザ

d 対 象：小学校4～6年生

e 定 員：40人

f 参加費：400円

g 参加者数：32人

a 内 容：工作教室「JAXA 連携事業・家族で協力して熱気球を飛ばそう」

b 実施日：平成27年12月5日（木）

c 場 所：さわやかちば県民プラザ

d 対 象：小学校1～6年生とその保護者

e 定 員：25組

f 参加費：110円

g 参加者数：26組



(オ) 県立市川工業高校連携事業

市川工業高等学校との連携は、学校外の学修としての高等学校単位認定支援事業（カ7）の展開とともに深まり、生徒自身が「ものづくりの学び」の成果を発表する場を提供する複数の連携事業を実施するに至った。本年度は、建築科卒業デザイン展、インテリアデザイン部(今年度より部に昇格)によるクリスマス装飾および校外展、インテリア科卒業制作展の4事業を実施した。

事業一覧(高等学校単位認定支援事業は別掲)

建築科卒業デザイン展(H26年度より実施)

実施日	曜	内 容	参加人数
-----	---	-----	------

5月23日	土	前年度卒業生が卒業制作として作成した建築デザイン・都市設計・フィリピンセブ島での研修レポートパネル，建築模型等の展示	393
5月24日	日		
5月30日	土		
5月31日	日		

インテリアデザイン部クリスマス装飾(H23年度より実施)

実施日	曜	内 容	参加人数
12月17日 から	木	タペストリー，クリスマスリース，モビール，クリスマスツリー	2,285
12月25日 まで	金		

インテリアデザイン部校外展(H24年度より実施)

実施日	曜	内 容	参加人数
12月19日	土	顔出しパネル，フェイクフード，ファッション甲子園出場作品，映像などの作品展示 クリスマスカード制作体験	462
12月20日	日		
12月23日	水		
12月24日	木		

インテリア科卒展(卒業制作展)(H24年度より実施)

実施日	曜	内 容	参加人数
2月20日	土	インテリア科3年生の卒業作品展示，課題研究発表会	415
2月21日	日		

(カ) 木更津工業高等学校専門学校連携事業

葛南・東葛地域の中学生及び保護者を対象として，学校説明会を実施した。あわせて，昨年同様，「サイエンススクエア」と称して，ロボコン出場ロボットのデモンストレーションなどを行い，学生の活動の成果を紹介する場として，当館も協力した。

a 実施日：平成27年8月1日（土）

b 場 所：企画展示室，研修室

c 参加者数：学校説明会 10人

サイエンススクエア 80人

(キ) 東邦大学連携事業 楽しい科学のひろば

東邦大学が，地域貢献の一環として実施している小学生向け科学実験教室に協力し，工作教室の指導を行った。

a 日 時：平成27年12月23日（水・祝）

b 主 催：東邦大学

c 共 催：県立現代産業科学館

d 場 所：東邦大学

e 内 容：工作教室「化石のレプリカ」

f 対 象：小学校5・6年生，中学校1・2年生

g 定 員：150人

h 参加費：無料（材料代は東邦大学が負担）

i 参加者数：約100人

(ク) 東邦大学生ボランティア活動

東邦大学理学部生で教員養成課程を履修中の者を対象としたボランティア活動の受け入れを行った。ボランティア活動人数、活動内容、活動件数は下記の通りである。

活動人数 39名

活動内容

- ①各種講座・工作教室等の指導補助
- ②各種イベント時における来館者の案内・誘導
- ③各種イベント準備
- ④アンケート調査等の整理・記録補助

活動件数のべ 92件 (37日)

(ケ) (市川市) 四中ブロック小中連携事業サイエンスパーク

新規事業。市川市の四中ブロックの小中学校は連携して理科の学習を推進している。その一環で夏休み期間に理科実験工作、自由研究相談などの事業を実施したものである。当日は、主に中学生が指導役となり、小学生向けの実験や工作を行う形であった。当館は材料・用具の準備や、指導役中学生への事前指導を中心に行った。

a 日 時：平成27年8月1日(土)

b 主 催：市川市立第四中学校

c 共 催：県立現代産業科学館

d 場 所：市川市立第四中学校

e 内 容：工作教室「ふうせんスライム」「スルリン」「きらきらミラーキューブ」

f 対 象：四中ブロック児童・生徒

g 定 員：150人

h 参加費：ふうせんスライム50円、スルリン150円、きらきらミラーキューブ150円(材料代は参加者が負担)

i 参加者数：35人、指導役中学生10人 計45人

(コ) 教員のための博物館の日

a 日 時：平成27年8月26日(水)・27日(木)

b 主 催：千葉県立現代産業科学館・国立科学博物館・公益財団法人日本博物館協会

c 後 援：文部科学省

d 場 所：千葉県立現代産業科学館

e 内 容：授業名人による理科授業法

講師 千葉県立東葛飾高等学校教諭 葛谷信治氏(26日)

千葉県立長生高等学校校長 大山光晴氏(27日)

教員のためのガイドツアー

教員の皆さんが得する科学館活用法と工作教室体験

f 対 象：教員・教育行政担当者・博物館関係者など

g 定 員：各講座とも約30名 のべ約180名 事前予約制

h 参加費：無料

i 参加者数：のべ約75名

(ク) 自作プラネタリウム投影機コンテスト

プラネタリウムの製作を通して「ものづくり」への感性を磨き、新しいアイデアや技術を切磋琢磨し、技術への興味・関心及び将来への夢を育むことを目的として「自作プラネタリウム投影機コンテスト」を開催した。

- a 実施日：平成 28 年 1 月 30 日（土）
- b 場 所：企画展示室
- c 参加校数：高校 3 校

ウ NPO 法人との連携事業

(7)くらしとバイオプラザ 21 連携事業

くらしとバイオプラザ 2 1 と連携し、以下の事業を実施した。なお、当館は場所の提供・広報を担当し、NPO 法人が講座等の運営及び指導を行った。

・親子バイオ入門実験教室

- a 日 時：平成 27 年 8 月 2 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分
- b 場 所：体験学習室
- c 内 容：バイオの基礎を学ぶ入門講座として、以下の実験を実施した。
顕微鏡でたまねぎの細胞観察、動植物の細胞（鶏ひき肉・バナナ）から DNA を抽出する実験、遺伝子組み換え大豆と普通の大豆からタンパク質を取り出し、試験紙を用いその違いを観察。
- d 参加費：1 人 250 円
- e 参加者数：32 名・14 組（定員 36 名・15 組 事前申し込み）

・キッチンサイエンス～カラーマジックケーキをつくろう～

- a 日 時：平成 26 年 10 月 6 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分
- b 場 所：体験学習室
- c 内 容：カップケーキを作ながら、ブルーベリーやレモン、重曹など身近な食品の酸性とアルカリ性の性質を学習した。
- d 参加費：1 人 250 円
- e 参加者数：30 名・15 組（定員 36 名・15 組 事前申し込み）

・バイオカフェ

- a 日 時：平成 26 年 11 月 1 日（日）13 時～15 時
- b 場 所：休憩コーナー
- c 内 容：身近なバイオテクノロジーに関する話題を、わかりやすく研究者と語り合い科学に親しむ機会を提供する。今年度は「“ヘアケアってなに？～毛髪の科学と白髪染めまで～”」と題し、身近なヘアケアを取り上げた。
講師 花王株式会社ヘアケア研究所主席研究員小池謙造氏
- d 参加費：1 人 300 円（テキスト・飲み物代）
- e 参加者数：22 名（定員 25 人 事前申し込み）

(4)NPO 法人 市川子ども文化ステーション 子どもがつくるまち「ミニ☆いちかわ 2015」

小学生を中心とした子どもたちが、自分たちが生活する場としての「まち」を形成し、そこで様々な仕事を体験し、生活していくという、キャリア教育のスタイルで展開された。

当館は、「化石のレプリカづくり」の事業所を開設し、関連する仕事を募った。（2 日間計 4 回開催で 99 名参加）

- a 実施日：平成 26 年 9 月 27 日（土）・28 日（日）
- b 場 所：千葉県立現代産業科学館
エントランスホール、サイエンス広場、サイエンスドーム、体験学習室
- c 参加者数：1,650 人（館入場者 7,162 人）

エ 地域企業等との連携事業

(ア) 第21回鬼高さんしゃ祭

地域の教育及び文化振興に寄与することを目的として、当館とメディアパーク市川、ニッケコルトンプラザの3施設が共催でイベントを実施した。総入場者数は9,539人であった。

a 実施日：平成27年10月25日（日）

b 主 催：メディアパーク市川・ニッケコルトンプラザ・県立現代産業科学館

c 場 所：メディアパーク市川・ニッケコルトンプラザ・県立現代産業科学館

d 内 容：当館敷地内で実施されたイベントは以下のとおり

イベント名	実施団体名	会場
ロボット操縦実験・体験	千葉工業大学	エントランス
ガラスペンダント作り	千葉県立東葛飾高等学校 理科部	休憩コーナー
おもしろ映像スタジオ	鬼高さんしゃ祭実行委員会	サイエンスドーム
パフォーマンスライブ in 鬼高さんしゃ祭	鬼高さんしゃ祭実行委員会	サイエンス広場
軽食販売	カフェテラスぴっころ 市川少年文化推進会議 社会福祉法人一路会コスモ	サイエンス広場
さんしゃ in スタンプラリー	鬼高さんしゃ祭実行委員会	サイエンス広場、 サイエンスドーム

(イ) いちかわ環境フェア2015

市川市と共催で実施した。例年6月の環境月間に開催される行事であったが、梅雨の時期で雨天になる事が多かったため、今年度は10月に実施した。「皆でつなぐ恵みのタスキ」をテーマに市民への環境情報の提供や環境に関する知識の普及、環境学習のきっかけづくり、さまざまな団体の環境活動の発表を行った。当館では「発光ダイオードを使ったミニライトづくり」の工作教室を開催した。

a 実施日：平成27年10月3日（土）

b 場 所：千葉県立現代産業科学館

サイエンスドーム、サイエンス広場、駐車場、エントランスホール

c 主 催：市川市

d 共 催：市川市地球温暖化対策推進協議会

e 参加者数：6,400人（館入場者2,203人）

(ウ) 第11回いちかわ産フェスタ ～再発見！いちかわ産業の魅力～

市川商工会議所と共催して、商業・工業・農業・漁業等の市内各業者が出店・展示を行い市内の産業を紹介するイベントを開催した。テクノモール・プレイモール・ショッピングモール・カルチャーモール・地産地消ゾーンの五つのエリアでは、特色ある展示や発表、販売などでたいへん賑わった。

a 日 時：平成27年9月12日（土）10時～16時

b 場 所：千葉県立現代産業科学館

企画展示室、エントランスホール、サイエンスドーム、サイエンス広場、駐車場

c 主 催：市川商工会議所、いちかわ産フェスタ実行委員会

d 共 催：千葉県立現代産業科学館

e 参加者：10,000人（館入場者8,616人）

(e) ガーデニングマーケット in 市川

市川市（まち並み景観整備課）と当館の新規共催事業であり、サイエンス広場を会場にガーデニング関連商品の販売、セミナー、講習会・展示を行うイベントである。

入場者数は10月17日が300人、18日が400人（市川市発表）であった。

- a 実施日：平成27年10月17日（土）・18日（日）
- b 主 催：市川市・県立現代産業科学館
- c 場 所：県立現代産業科学館サイエンス広場
- d 内 容：ガーデニング関連商品の販売、セミナー、講習会・展示

オ 諸機関との連携事業

(ア) 発明くふう展

来館者の科学に対する興味・関心を高めるとともに、発明協会会長賞や日本弁理士会会長賞を受賞した千葉県在住児童の作品を取り上げることで、地域文化振興を目指し、全日本学生児童発明くふう展に入賞した作品を展示した。

- a 日 時：平成27年6月20日（土）～平成27年7月31日（金）
 - b 主 催：県立現代産業科学館
 - c 場 所：エントランスホール
 - d 内 容：全日本学生児童発明くふう展に入賞した作品の展示
 - e 参加費：無料
 - f 参加者数：16159人
- ※協力：公益社団法人発明協会

カ 学校支援事業

(イ) 高等学校単位認定支援事業

博学連携の一環として、高校生の科学及び博物館活動に対する理解を深めるために実施している。生徒は、校外授業として、当館の講座・事業などに参加し、課題の提出を行う。当館は、生徒の出席状況等を高等学校に報告し、高等学校長が単位を認定する。

平成18年度より市川工業高等学校に対して単位認定支援事業を行っており、今年度は10年目を迎えた。

出張講座 実施一覧

実施日	曜	時間 (分)	内 容	形態	参加人数
5月23日	土	120	開講式 オリエンテーション 「千葉県立現代産業科学館について」 館内見学	聴講 見学	17
6月7日	日	180	「アルコールロケットをとばそう」	実習 工作補助	12
6月28日	火	210	「発光ダイオードを使って ミニライトをつくろう」	実習 工作補助	16
7月12日	金	180	土器と古代宅配便 「勾玉や鹿角ペンダントをつくろう」	実習 工作補助	16
8月1日	土	180	「ソーラークッカーで 蒸しパンをつくろう」	実習 体験補助	15

8月11日	火	180	プラネタリウム上映会 展示・運営協力会展示会	鑑賞 見学	15
10月10日	火	150	「コパルを磨き、生物を発見しよう」	単独実習	15
11月21日	水	150	展示・運営協力会講演会 「わくわく どきどき おもしろ情報たいけん」 企画展 「最先端ネットワークのかたち」	聴講 見学	15
12月23日	金	180	クリスマス実験講座 「科学の芽を育てる」 クリスマスコンサート	聴講 実験補助 鑑賞	17
1月9日	金	120	プラネタリウムの製作	単独実習	13
2月13日	火	150	特別講義「電気の歴史」 閉講式	聴講 見学	16

(イ)職場体験及びインターンシップ

a 職場体験

中学生の進路適正の吟味と進路情報の活用，望ましい職業観・勤労観の獲得，及び主体的な進路の選択と将来設計などを目標として，希望のあった学校より1校3名を限度に職場体験の受け入れを行った。また，県のキャリア教育の一環として小学校で開催されている職場訪問について近隣小学校児童の見学を受入れた。

職場体験 実施一覧

受け入れ期間（曜日）	学校名	学年	参加人数
6月4日（木）～6月5日（金）	市川市立第二中学校	2年	3名
6月11日（木）～6月12日（金）	八千代市立高津中学校	2年	2名
6月30日（火）	市川市立妙典中学校	2年	3名
7月2日（木）～7月3日（金）	市川市立大洲中学校	2年	2名
10月8日（木）～10月9日（金）	市川市立第八中学校	2年	3名
10月22日（木）～10月23日（金）	市川市立南行徳中学校	2年	3名
11月5日（木）～11月6日（金）	市川市立第四中学校	2年	3名
11月18日（水）～11月19日（木）	千葉市立花園中学校	2年	2名
11月12日（木）～11月13日（木）	船橋市立船橋中学校	2年	2名
1月15日（金）	船橋市立坪井中学校	2年	3名
1月21日（木）～1月22日（金）	船橋市立習志野台中学校 船橋市立若松中学校	2年	4名 2名

b インターンシップ

高校生に就業体験の機会を提供することにより，職業観・勤労観を育成するとともに，主体的な職業選択能力を高めることに寄与することを目的として，インターンシップの

受け入れを行った。

7月22日(水)～7月24日(金)	千葉県立佐原高等学校	2年	1名
	千葉県立大多喜高等学校	3年	1名

(g) 博物館実習

平成8年度より博物館実習生の受け入れを行っている。

今年度は大学生9名の実習生を受け入れ、現代産業科学館の展示活動及び教育普及活動等に関連した内容で実習を行った。

a 実施期間及び日数

平成27年9月2日(水)～9月11日(金)のうち8日間

b 27年度受け入れ大学名及び人数

・聖心女子大学	1名	・東京成徳大学	1名
・武蔵野美術大学	1名	・東京情報大学	2名
・帝京科学大学	1名	・日本大学	2名
・東京農業大学	1名		

博物館実習実施内容

月日	曜	内 容	
		午 前	午 後
9月2日	水	開講式 「オリエンテーション」 「現代産業科学館設立の意義と現状」 「千葉県博物館ネットワークについて」	展示見学 「解説ツアー体験と展示案内」 「実験・演示について」
9月3日	木	「庶務課の業務」 「学芸課の業務」 「普及課の業務」	「企画展の実施について」 「ボランティアの活用・インターンシップ・職場体験の実施について」 「広報活動について」
9月4日	金	課題研究	課題研究
9月5日	土	課題研究	「来館者対応とチケットカウンター体験」 「科学教育プログラム開発に関する実習」
9月6日	日	「科学教育プログラム開発に関する実習」	課題研究
9月9日	水	課題研究	課題研究
9月10日	木	「博物館資料の取り扱いについて」 展示作業	展示作業
9月11日	金	課題発表準備	課題発表・講評 まとめ 閉講式

(e) 東邦大学連携事業 博物館教育利用実習

概要

東邦大学理学部主催の教員養成講習のうち、博物館を含む社会教育施設の教育利用の現場事例を知る実習について協力した。

a 日時

平成27年9月1日(火) 9:00 から 16:00 まで

b 講師

今井 泉 教授 (東邦大学教員養成課程)

畑中敏伸 准教授 (東邦大学教員養成課程)

本館(普及課・学芸課) 職員

c 内容

本館を会場として科学館の教育プログラムの概要講義及び展示理解と展示解説シミュレーション実習を実施し、博物館を含む社会教育施設の教育利用について、提案及び課題発表を行う。

d 参加者数

20名

e 日程

時 間	内 容	場 所
8:50	集合	エントランスホール
9:00	実習の流れについて	研修室
9:10	千葉県立現代産業科学館の概要	研修室
9:30	学校の科学館活用について(千葉県立現代産業科学館の教育プログラム)	研修室
9:50	3グループに分け順次受持ち展示物の学習 (館職員解説 15分ずつ) - 館職員の解説時間以外は展示場自由見学 -	常設展示場
11:35	科学館への提案を各項目(ジーマンスの電車・T型フォード・ベッセマー転炉)について提案(千葉県立現代産業科学館の教育プログラム)	研修室
12:00	休憩	
13:00	施設見学(収蔵施設・常設展示等) 実験シアター・放電実験・実験カウンター	収蔵施設 常設展示場
14:40	休憩	
15:00	課題発表(グループ発表) (学習した展示を他の2グループの学生に解説する。各15分) まとめ	常設展示場 研修室
15:45	科学館への提案をグループで発表 各班5分以内	研修室
16:00	終了	エントランスホール

Ⅲ 資料

入館状況

年度	個人入館者（人）							団体入館者（人）							年度計（人）	累計（人）	開館日数（日）	1日平均入館者数（人）
	一般成人	高大学生	小中学生	学齢前児童	65歳以上	心身障害者	計	一般成人	高大学生	小中学生	学齢前児童	65歳以上	心身障害者	計				
平成6年度	102,344	5,742	78,466				186,552	18,311	2,739	12,591				33,641	220,193	220,193	241	914
平成7年度	139,443	4,980	115,084				259,507	19,315	2,470	23,142				44,927	304,434	524,627	304	1001
平成8年度	154,944	3,354	127,519				285,817	14,055	1,827	23,356				39,238	325,055	849,682	300	1084
平成9年度	162,274	2,474	124,765				289,513	11,052	1,941	24,062				37,055	326,568	1,176,250	302	1081
平成10年度	166,272	2,657	127,181				296,110	10,430	1,713	21,580				33,723	329,833	1,506,083	300	1099
平成11年度	179,685	4,177	130,997				314,859	9,789	1,543	21,759				33,091	347,950	1,854,033	300	1160
平成12年度	168,109	3,239	136,301				307,649	10,641	1,535	20,193				32,369	340,018	2,194,051	298	1141
平成13年度	171,633	3,053	139,460				314,146	8,732	1,212	19,049				28,993	343,139	2,537,190	298	1151
平成14年度	200,158	3,296	104,590	20,718			328,762	7,210	1,360	16,800	2,004			27,374	356,136	2,893,326	298	1195
平成15年度	197,504	2,779	95,592	21,009			316,884	7,396	1,650	17,301	1,733			28,080	344,964	3,238,290	299	1154
平成16年度	101,876	1,726	27,146	9,576	1,840	1,086	143,250	3,218	923	10,050	1,558	641	944	17,334	160,584	3,398,874	300	535
平成17年度	114,674	2,277	29,986	9,910	2,350	1,900	161,097	2,434	349	9,539	1,090	633	626	14,671	175,768	3,574,642	311	565
平成18年度	109,284	1,447	22,501	7,133	2,247	1,704	144,316	2,033	527	9,150	1,365	529	901	14,505	158,821	3,733,463	312	509
平成19年度	121,107	1,457	24,793	7,605	2,257	1,836	159,055	1,857	489	6,933	1,003	440	781	11,503	170,558	3,904,021	320	533
平成20年度	141,865	1,787	27,624	8,566	3,768	2,304	185,914	4,116	608	6,988	1,778	216	737	14,443	200,357	4,104,378	317	632
平成21年度	126,903	1,338	22,082	6,583	2,839	1,741	161,486	2,005	162	8,369	1,273	461	956	13,226	174,712	4,279,090	312	560
平成22年度	112,571	1,135	20,169	6,062	2,367	1,807	144,111	1,507	287	6,592	1,299	519	1,099	11,303	155,414	4,434,504	304	511
平成23年度	123,794	1,375	23,479	7,694	4,492	2,286	163,120	2,379	204	9,191	1,702	467	976	14,919	178,039	4,612,543	315	565
平成24年度	115,800	755	21,336	7,166	2,501	1,879	149,437	1,882	215	7,378	1,883	513	574	12,445	161,882	4,774,425	310	522
平成25年度	109,867	868	23,345	8,221	3,275	2,345	147,921	1,923	609	7,460	1,626	780	1,048	13,446	161,367	4,935,792	310	521
平成26年度	138,751	2,015	24,320	8,913	5,003	2,788	181,790	1,879	607	7,545	2,556	633	798	14,018	195,808	5,131,600	309	634
平成27年度	103,733	1,200	21,730	9,222	3,415	3,431	142,731	1,509	453	6,112	1,291	293	498	10,156	152,887	5,284,487	309	495
合計	3,062,591	53,131	1,468,466	138,378	36,354	25,107	4,784,027	143,673	23,423	295,140	22,161	6,125	9,938	500,460	5,284,487		6,669	792

※平成6年度は6月15日の開館以降

団体内訳

(団体数)

年度	一般成人	高大学生	小中学生	学齢前児童	65歳以上	心身障害者	計
平成6年度	571	27	262				860
平成7年度	536	41	441				1018
平成8年度	351	36	408				795
平成9年度	314	38	404				756
平成10年度	247	30	404				681
平成11年度	252	37	409				698
平成12年度	260	32	367				659
平成13年度	249	26	426				701
平成14年度	194	38	393	50			675
平成15年度	183	41	356	41			621
平成16年度	67	34	225	56	23	58	463
平成17年度	34	9	178	29	19	23	292
平成18年度	19	14	185	35	20	50	323
平成19年度	21	8	139	27	16	42	253
平成20年度	30	15	140	45	9	33	272
平成21年度	49	9	145	39	9	56	307
平成22年度	25	14	122	36	10	64	271
平成23年度	40	12	180	46	12	63	353
平成24年度	21	14	142	39	18	39	273
平成25年度	16	10	155	39	31	65	316
平成26年度	18	10	157	57	29	48	319
平成27年度	11	10	113	47	7	32	220
合計	3,508	505	5,751	586	203	573	11,126

区分内訳

(人)

区分	個人	団体	計	
一般成人	3,124,052	159,736	3,283,788	62.14%
高・大生	53,131	23,423	76,554	1.45%
小・中学生以下	1,606,844	317,301	1,924,145	36.41%
計	4,784,027	500,460	5,284,487	
	90.53%	9.47%		

千葉県立現代産業科学館 年報（平成27年度版）
平成28年（2016年）7月 発行

編集・発行
千葉県立現代産業科学館
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番3号
TEL 047-379-2000
FAX 047-379-2221